

みつめい

題字・末川 博名誉総長

Rits
立命館大学

立命館大学校友会報

NO.
230

2007
OCTOBER

特集

「映像」の豊かな可能性
—立命館大学映像学部への挑戦—



Brilliance
輝くひと
63

日本茶への愛を
花開かせる“茶ムリエ”

日本茶インストラクター
今村 由美さん ('04法)

03 特集

「映像」の豊かな可能性

—立命館大学映像学部の挑戦

大森康宏映像学部長・大島登志一教授・富田美香准教授

01 輝くひと

今村由美さん

10 RITSUMEI INTERVIEW

何が正しいかを問い、そして“清朗”でありたい

読売巨人軍 球団代表

清武英利さん

14 恩師の窓

西川富雄名誉教授(文学部)

塩田親文名誉教授(法学部)

15 自由席

16 オール立命館デー in東京
RITSUMEX'07 ご案内

20 学びの交差点

新しい対人援助と情報通信技術

望月 昭文学部教授

樋口宜男情報理工学部教授

26 校友会ネットワーク

28 この一点

国際平和ミュージアム

「浦上天主堂で被爆した石像の顔面部」

30 キャンパストピックス

32 コミュニケーションマーク誕生

33 Rits One 輝いていますときの人

前田直輝さん

34 学生のスポーツ&イベント

36 INFORMATION

表紙の人



日本茶インストラクター

今村 由美 さん('04法)

日本茶への愛を花開かせる“茶ムリエ”

「幼稚園でお茶の教室を開いたら、急須を見たことがないという子がたくさんいて驚きました。誰にとっても身近なはずのお茶の文化が薄れていくなんて淋しい。桜ほうじ茶、ほうじ茶ミルクなど新しい飲み方の提案も加えながら、一人でも多くの方に日本茶の良さを伝えていきたいと思います」。

“茶ムリエ”の愛称を掲げ、生家の「お茶の星陽園」(福岡県春日市)を拠点に、国内外で日本茶の普及活動に勤しんでいる今村さん。大学卒業の年にお茶の淹れ方、栽培・製造の方法、歴史や効能に至るまで幅広い知識を試される「日本茶インストラクター認定試験」に合格した。その後「グリーンティー・ジャパングランプリ2006」グランプリに輝いたり、包装をおひなさまの衣装風にした煎茶のオリジナル商品が、国土交通省による「魅力ある日本のおみやげコンテスト2006」銀賞に選ばれるなど、努力が花開いている。また近々、今村さんがプランニングに携わった「九州の銘茶と名水を訪ねる旅」や、九州7県のお茶をブレンドした「九州茶」が、JR九州や航空会社によって商品化される予定だ。お茶の素顔に近づきたいと各地の茶どころを訪ね歩いた経験が、思いがけない形で目の目をみるのだ。

「学生時代はRBC(立命館大学放送局)にいました。“人に伝えたい”気持ちが強いんです。幼い頃から親しんだ日本茶への愛情や感性をお伝えできるのは嬉しいことです。それに、せっかく国際比較法を勉強したので(笑)、これからは外国のお茶と比べることで浮かび上がる日本茶の魅力も見つけていきたいです」と今村さん。RBCでの思い出の一つに、2002年校友大会の司会がある。「愛校心と青春の熱さを持ち続ける先輩方のパワーに感動しました」。東京ヤクルト・古田敦也監督の大ファンであることから生まれた立命館との縁。さわやかな笑顔で「お茶への愛とともに母校愛も育みます」との言葉をくれた。

<http://www.seiyouden.com/>

(写真・小幡 豊 文・寺田直子)



10



28



34

特集

Special Feature

「映像」の 豊かな可能性

— 立命館大学映像学部への挑戦 —

わが国の映画、そしてゲーム産業を生み出した街、京都。

この地において新しい映像文化と映像産業の創出を目指すべく、

今年度、衣笠キャンパスに日本初の「映像学部」が開設されました。

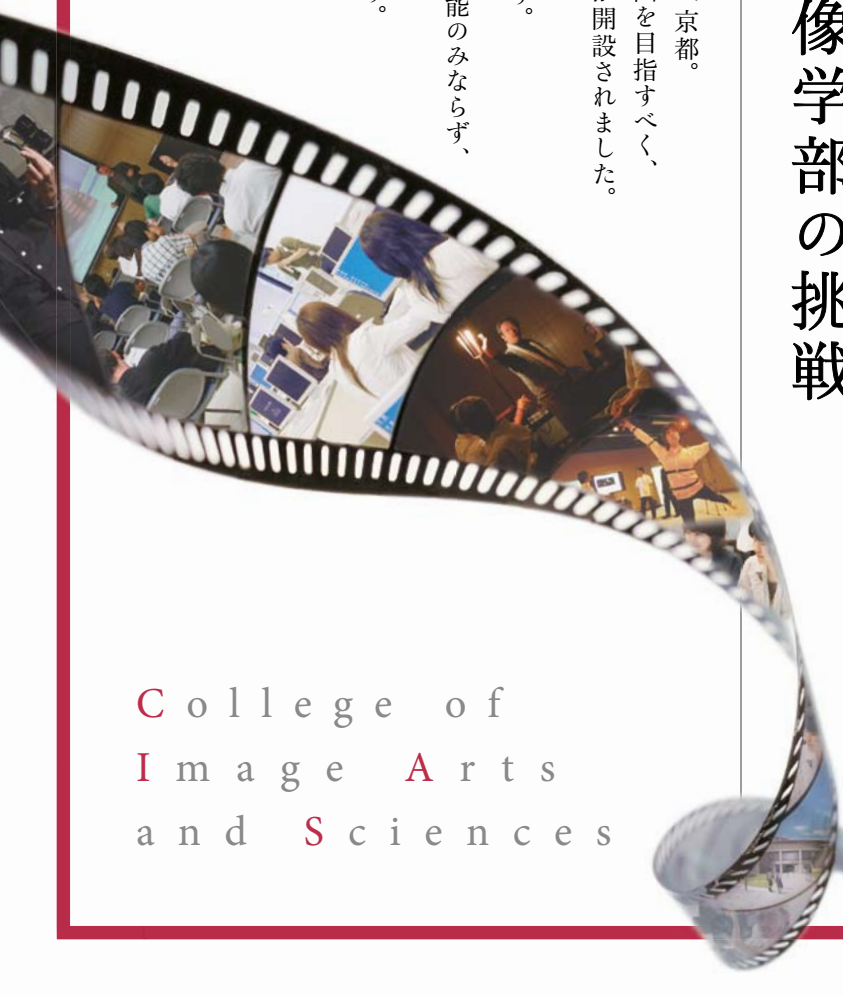
この秋には待望の新校舎が竣工し、

映像学部は理想に向かって本格的に走り出します。

文理融合型カリキュラムにより、映像関係の諸技能のみならず、

学生の豊かな教養と知識を育てる映像学部。

そこでの教育・研究の一端を、ここに紹介します。



College of
Image Arts
and Sciences

「映像」と「映像学部」

大

の可能性

森 康宏 映像学部長

増えていく「映像」活用場面

——「映像」にもいろいろありますが、映像学部で扱う範囲はどのあたりですか。

大森 映画、テレビ、ビデオゲーム、コンピュータグラフィックス（CG）、それが進化したバーチャルリアリティといったところです。

絵画や写真も広い意味では映像と言えますが、映像学部では、「動く映像」を扱うことを基本にしていますので、対象にしません。

——映像のもつ文化性や、社会における映像の効用について、先生はいかがお考えですか。

大森 まず、歴史的な背景をお話しします。映像の故郷であるヨーロッパでは、映像は主にサイエンスやドキュメンタリーの分野で発達してきました。例えば世界各地の自然や文化の比較研究、心理学

における行動観察といった場面で、記録・分析するために有効な技術として使われていたのです。

しかし日本に入ってきたばかりの頃の映像は、どちらかといえば娯楽の性格が強いものでした。時には良質とはいえない興行と結びついたりしたこともあり、日本の映像は、本場のそれとは異なった道を歩みました。一方で学校の現場では、社会情勢や国策に合わせた教育を行うために、解説のついた、画一的な情報伝達をする映画が上映されるようになりました。したがって、かつての日本人は「自分で解釈、判断できる映像」にはほとんど触れることができなかったのです。これらが日本で映像リテラシー（映像を活用する力）が育つが遅れた原因だと私は考えています。

現代社会において映像は、文化の象徴であるとともに、さまざまな活用の可能性を内包したメ

ディアです。言葉だけでは伝えにくいものを、具体的に分かりやすく伝えることができます。百聞は一見に如かずで、その効用はとても大きい。いろいろな場面でコミュニケーションをサポートするのに大変役立つ道具です。

そして、現実だけでなく、仮想の世界や、言葉にできないことを表現することもできますから、映像がその力を発揮する可能性は無限にあると言ってもいいのです。

皆さんがまずイメージされるのは、いわゆるアミューズメント、エンタテインメントと言われる分野、つまり映画やテレビ、ゲームのコンテンツでしょうね。日本の映像が文化的にも技術的にも国際的に高く評価され、コンテンツ産業が成長を続けていることはご承知の通りです。

それからノンフィクションの、記録・伝達・報道といった分野。これもどなたにも馴染みがあるものですね。

そして、私が特に強調したいのは、さきほど触れましたコミュニケーション・サポート、つまり相互理解を助けるという効用です。これは特定の分野に限ったものではありません。「わかりやすく、印象的に伝える」ことが求められるところでは、どこでも映像が活躍するのです。最近では三次元の立体映像が発達してきましたので、なおのことです。企画書や、プレゼンテーションの場で映像を用いる。建築設計図面に付加する。あるいは研究発表に際して映像を添える。添えると言うよりも、最近では映像作品そのものが研究成果として認められる時代になってきました。そう遠くないうちに、研究分野によっては、業績が「論文」だけでは遅れていると言われるようになるかもしれませんよ。



おおもり やすひろ

1943年生まれ。1977年フランス・パリ第10ソルボンヌ大学民族学部博士課程修了。民族学博士。

国立民族学博物館教授を経て、2007年より本学映像学部教授、学部長。国立民族学博物館・総合研究大学院大学名誉教授。専門は映像人類学（民族誌映画）。

映像作品40本以上。受賞多数。

「映像的心得」を育てる

——すると、映像学部設立の意義・目標や、映像学部が育てる人材の理想像については、いかがでしょうか。

大森 映像学部は、新しい映像文化と映像産業の創出に寄与することを目指し、それらをプロデュースできる能力を育むことを目標にしています。学生は映像リテラシーをしっかりと身につけ、どんな場面でも、どのように映像を用いれば効果的であるのかをイメージできるようにすることがまず大切です。そして各人が目指す方向性に応じて、実際に映像を制作したり、企画・配給・販売を総合的にプロデュースしたり、あるいは企業や役所の中で、映像を効果的に利用できる人材として活躍するといった道を進んでいけばよいのです。

ここは大学ですから、「映画監督になるには」「ゲームクリエイターになるには」といった方法論だけを教えるわけではありません。むしろ、「映像的心得」つまり、ビジュアルマインド、クリエイターマインド、もつと噛み砕いて言えば、絵心とでも言いますか、こういう、すぐには目に見えない潜在的な力を育てる場所であると、私は考えています。

「映像的心得」は、クリエイターになる、あるいはプロデューサーになるための素養です。映像に関して学識経験のあるクリエイター、プロデューサーとして、撮影・音響関係やプログラミングといったそれぞれの工程の専門家の仕事をよく理解し、まとめ上げていくための基本的な力です。

そしてこの「映像的心得」が、コンテンツ産業に限らず、現代社会のあちこちで求められているのは、さきほどお話しした通りです。広告業界の皆さんが、私のところにこぞって質問に来られます。ほかに建設業や都市計画をするようなところ、シンクタンク、各種メーカー……。映像アーカイブズが発達していきますから、映像資料管理の専門家も必要でしょう。それから貿易会社などでも映像リテラシーは有効なんです。正しい異文化理解

あつてこそ商取引ですから。それに日本ではまだまだ人数が少ないのですが、サイエンスコミュニケーションターといまして、科学的研究成果を、一般人々に分かりやすく伝える仕事もあります。それには映像が欠かせません。

ここで申し添えたいのは、「映像的心得」は、他の教養と結びついたときにより強い力を発揮するということです。学生には、自然科学、社会科学、外国語といったものも自分でよく勉強してほしいと願っています。そもそもプロデュースなどということは、世の中を深く知らなければできませんから。

自分自身のプロデュースから

——映像の制作、あるいはプロデュースを学ぶために必要な態度とはどんなものでしょうか。

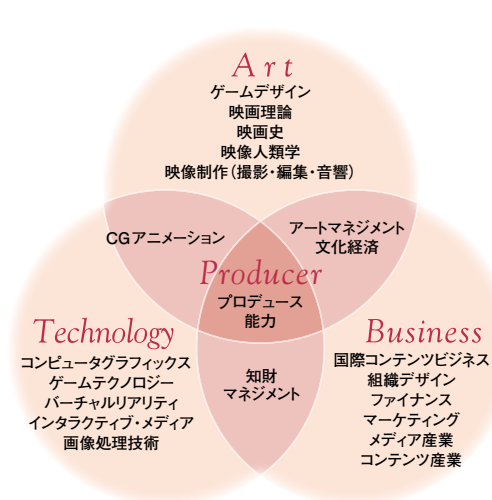
大森 広い教養を身につけて、人間としての幅を広げること。そしてやはり、大事なのは情熱と、諦めない強い気持ちですね。

一年間に五百本の映画を見るくらいの気構えがあればいいですね。そのくらいの情熱を持てる学生は、ただの映画好きとは違います。映画監督になれるかもしれない。映像づくりや、ストーリー展開のノウハウが、感覚としてわかっていきますので。

いろいろなジャンルの作品を、アトラダムに次から次へと見ていく。百本くらい見たところで、そこで扱われている主題に共通して関係するものが、横断的に、おぼろげながら分かってきます。社会的見地からはこうである、経済的に見れば……と、分析できるようになります。そうして、一年間五百本の鑑賞を二年くらい続ければ、映像のことはだいたい理解できるようになるでしょう。

あとは実体験です。社会的活動に熱意をもってのぞむとか、真剣に恋愛をするとか。

私自身は、民族誌映画を撮り続けてきましたが、最初の作品はフランス留学中に情熱だけを元手に作りました。映画のカメラの会社でアルバイトを



して、見よう見まねで撮影技術を学びました。次に編集の現場で掃除・洗濯まで何でもやり、映画監督に直接話を聞いて、映画作りの何たるかを教わりました。機材はアルバイト先から借り、フィルムは使用期限が迫ったものを譲り受けて。妻を助手にしてジブシーの生活を追いました。こうして作った映像をもとに、フランスに学術研究費の申請をしたところ、それが認められて、続く活動が軌道に乗っていったのです。映像作りは簡単にはできません。だからこそ諦めてはいけません。

——映像学部一期生の姿を、どのようにご覧になっていますか。

大森 難関をくぐりぬけた、優秀な学生が揃っています。何らかの形で自分で作品を作ってみたいと考えている学生が過半数ではないでしょうか。その他は、どちらかといえば企画やプロデュース、映像の応用のほうに関心があり、幅広く知識を得たいと思っている学生たちです。

私は学生に、「日常のすべてが勉強だよ」と言っています。いわゆる勉強のほかに、社会勉強、自分磨きと、映像学部の学生に与えられた課題は非常に多いです。まずは自分自身のプロデュースから始めてほしいですね。

立命館「映像学」

の風景

映画史・映像文化研究

富田美香 副学部長(准教授)

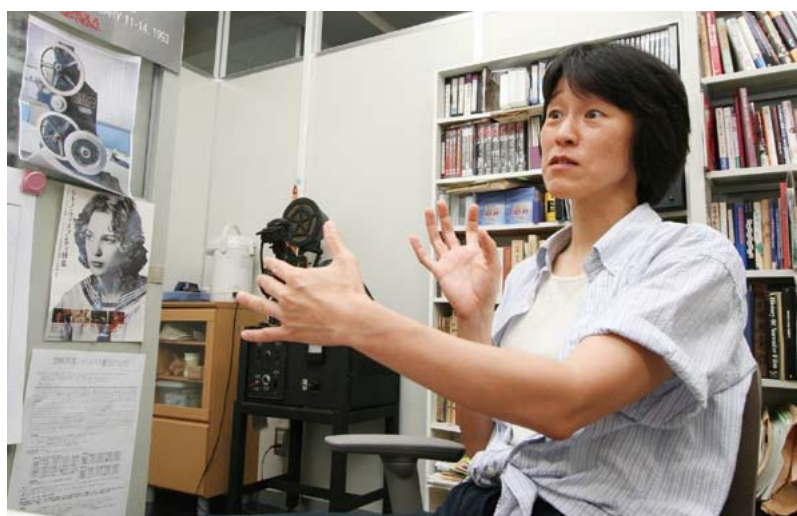
富田先生の研究分野は、映画学の一分野である「映画史」。特に、日本のサイレント映画期から第二次大戦中までの映画史を専門とされているが、それ以後の作品や、周辺分野についても造詣が深い。

先生は、知られていなかった映画を見つけた

り、既知の作品を見直したりしながら、これまでの映画史には記されてこなかった歴史に目を向ける。また、観客の側がどのように映画を受容していたのか、制作現場の真っ只中で汗して働いていた人々の映画にかける思いは…、というように、従来とは別の視点に立った歴史の掘り起こしも試みている。つまりは、「日本映画史の読み直し」である。

研究の方法としては、資料・文献調査、映像作品に直接あたる作品調査、そして、フィールドワークとしての聞き取り調査や、映画制作ゆかりの地の訪問調査などがある。

二〇〇〇年以降、本学アート・リサーチセンターの主な研究プロジェクトの一つである「京都映像文化デジタルアーカイブ・マキノ・プロジェクト」、それに続く「失われた映画イメージの復元研究―マキノ・プロジェクトII」を担い、また文部科学省21世紀COEプログラムに採択された「京都アート・エンタテインメント創成研究」にも参画している。映像学部開設にあたって、カリキュラム構想や、大学と映画界との橋渡しに大いに尽力してこられた。



前任の文学部でも多くの授業をもっている富田先生が、いま映像学部で担当している科目は、「映像文化研究」(複数担当制)。この授業では、学生に映像作品を鑑賞させた上で課題を出し、レポートを求める。学生が撮影所を見学する際の引率もする。今後、一学生たちが進級していくにつれ、映画史や特殊講義も受け持つことになる。

先生が教育にあたり最も心がけているのは、「映像への深い愛情をもった学生を育てること」と、「学

生の外へ向かう視線を涵養すること」だそう。

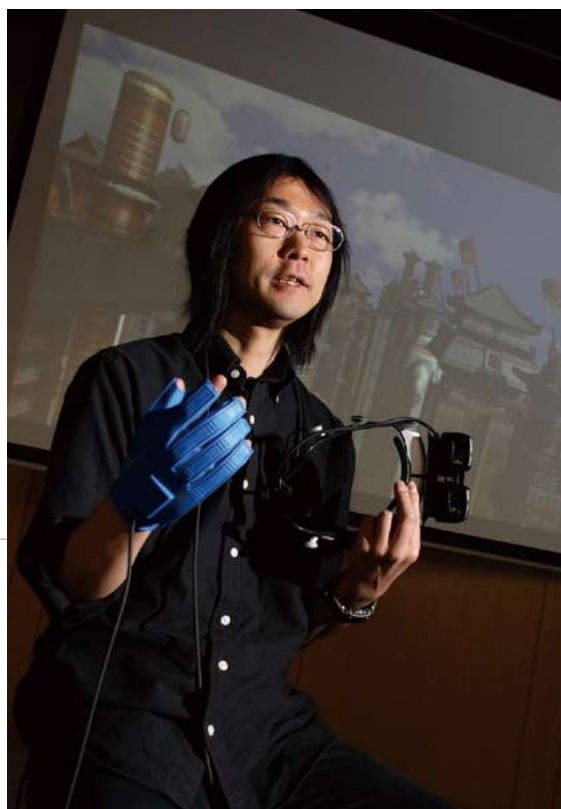
富田 自身、高校生の頃にはすっかり映画のとりこになっていました(笑)。ある作品に心酔すると、その監督の作品を次々に見て、その方と同時期に台頭してきた別の監督の作品も見なくなり、さらには、映画を形作る要素のすべて、フィルムやカメラ、俳優や撮影スタッフの心意気にまで、関心が縦横無尽に広がっていきました。

映像学部で私は、「映画界にはこういう人がいます、こんな作品があります、こういう仕事の仕方があります」という情報を学生に紹介しています。私自身が何かを教え込むのではなくて、映像のさまざまな世界に引き合わせていくとも言えます。なか。その中の何を重視し、誰の背中を見ながら映像への愛と熱意を育んでいくのかは、個々の学生が決めることです。学生たちが大学の中でできることだけで満足せず、外の世界に目を向け

「三朝小唄」スチル

マキノ映画 金森万象監督(一九二九年)「富田准教授提供」
ロケ地の三朝温泉にマキノ映画から寄贈されていたフィルムを、アート・リサーチセンターの「マキノ・プロジェクト」で復元した。





バーチャル リアリティ

大島登志一 副学部長(教授)

対象への愛情と、外の世界への関心は、コンピュータグラフィックスやゲームデザイン、あるいは各種プロデュースを学ぼうとする学生にも共通して必要なことである。富田先生は日々、学生たちの「映像人的キャラクター」を磨くべく奮闘しているのだ。それに応えるように、学生たちは早くもそれぞれの関心に即した自主制作などに取り組み始めている。

「バーチャルリアリティ」(VR)という言葉だけならば、ほとんどの読者をご存知だろう。かつては「仮想現実感」と訳されたが、今では「人工現実感」と言い換えられ、語感的にも分かりやすくなってきた。すなわち、コンピュータを

駆使して視覚・聴覚・触覚等の感覚を人工的に作り出す技術であり、将来的には嗅覚・味覚まで作れるように研究が進められている。家庭用ビデオゲームでの体験との違いは、見回したり、移動したり、主観的な視点での臨場感が得られること。そして何より、当事者がその現実感に主体的に係われる点にある。例えば、今ヘッドマウントディスプレイを装着して人工現実の街の中にいるとしよう。「デパートに入りたい」と思えば、歩みにつれて風景がデパート内部へと変化していくのだ。さらには、商品を手にとって見ることも可能である。

そして最近では、「ミクストリアリティ」(MR:複合現実感)と言われる技術も登場してきたそう。視界のすべてをコンピュータグラフィックス(CG)に委ねず、背景には実写を使い、必要な部分だけをCGで表現してそれらをリアルタイムで合成する。より現実感の高い体験が可能で、現実空間の中での応用もやすくなる。

大島先生の専門は、MR/VRの産業応用。新しい技術を、様々な分野の実利用段階に発展させる研究である。

大島 装置が高価なこともあり、VR/MRの実利用現場は、まだ限られています。自動車のデザイン検討や製造シミュレーションなどでは、本格的に活用されています。特殊な表示装置で実物大のCG車面を体験したり、実際の製造ラインに乗せる前に、部品同士が干渉して組み立てられない箇所がないか、

視覚と触覚のVRで検証しているメーカーがあります。また、映像学部的には、エンターテインメント産業が今後の大きなターゲットになると考えています。

産業応用という専門は、産学連携にも有利だ。ただ、映像学部で学生にVRを教え、研究するからには、これまでの技術的関心からさらに一歩踏み出してものを考えたいと大島先生は言う。

大島 理工学系の研究者は、VR・MR技術のさらなる進化を目指して、新技術の研究に注力しています。映像学部の観点からは、先端の研究を補完する形で、ある程度の道具立ては揃ったと仮定し、本格的なコンテンツ制作のワークフローを確立したいと考えています。この映像学部で、映画やゲーム制作の理論や方法を熟知した先生方と協力して、実生活を豊かにする道具として使えるVR・MRのあり方を考えて行きたいのです。

ですから学生にも、VRをむずかしい将来技術とは考えずに、正しく理解して実際に使える能力を身につけてほしい。その上で、創造的な応用を考えてもらいたい。「面白そうな新しい技術を手に入れたぞ。これで何を作れるかな」という、技術をプロデュースするセンスと発想力を身につけてほしいのです。ゲーム作りにはもちろん使える。新しいタイプの映画もできるかもしれない。他には何が...?というふうには。

この秋竣工する映像学部棟には、VR関連設備も設置される。大島先生はそこで学生たちと共に、自由で楽しいVR応用にチャレンジしていくのだ。

*1 ビデオゲーム

コンピュータディスプレイに画像を表示するタイプのゲーム。

*2 ヘッドマウントディスプレイ

頭部装着ディスプレイ。

映像学部 学びの現場から

映像学部で何を学ぶ？

映像学部では、映像メディア（映画・コンピュータグラフィックス（CG）・ゲーム・バーチャルリアリティなど）を作るプロセスや表現手法を理解して映像を作成する「クリエイター」や、企画から配給・販売まで総合的にリードできる「コンテンツ・プロデューサー」になるために必要な知識と技能を学ぶことができます。

また、総合大学という環境を生かして、映像コンテンツを制作するスキルはもとより、資金調達やビジネスの展開、制作した映像が与える社会的影響までもマネジメントできる幅広い専門能力と高い教養の体得が可能な、文理融合教育を受けることができます。

映像学部の四年間の学び方

◎一回生

小集団授業で読解力・表現力・マネジメント力を身につけます。映像作品の鑑賞や実習授業、クリエイターと交流する体験型学習も実施。「クリエイティブ・リーダーシップ・セミナー」では、映像の現状の課題や未来などを理解し、キャリア意識を養います。

◎二回生

映像の理論や歴史を学び、映像作品を分析して批評眼を養成。CGをはじめとする映像技術や音響技術を学び、映像マーケティングや映像ジャーナリズムについて考察を深めます。映像作品を制作する実習が本格的に始まります。

◎三回生

豊富な実習やインターンシップを通じて実践力を養成します。企業の研究開発者による実践的な講義「企業連携プログラム」も受講。映像技術の研究に取り組んだり、映像作品やコンテンツの制作に挑戦します。

◎四回生

四年間の集大成となる卒業研究に取り組みます。実際の制作現場のようにプロジェクトチームを結成し、本格的な制作活動を開始します。さまざまな発信方法で自らの作品を発表する機会が設けられます。

「現場」を豊富に体験

映像学部には、実績のあるプロデューサーやクリエイターによる講義、映像コンテンツの制作やプ



TOPICS 1 山田洋次監督が講演

五月十一日、第二回「映像文化研究」には、『男はつらいよ』シリーズや『たそがれ清兵衛』、『武士の一分』などで知られる映画監督・山田洋次氏（二〇〇七年度より立命館大学客員教授）を講師に迎えました。

はじめに、山田監督の代表作『男はつらいよ』シリーズの第一作目を学部生全員で鑑賞。上映終了後、山田監督を交えてディスカッションを行いました。山田監督は、「この映画はどんな映画だったのか」「それぞれのシーンの主人公の台詞や表情にはどんな意味が込められていたか」を一言で説明せよ、といった課題を学生に課すとともに、映画の魅力を他者に簡潔に説明できる鑑賞力・考察力の重要性を述べ、ワンカット・ワンシーンに込められた意味を分析することが、「映像」を学ぶ上で重要であると説きました。



TOPICS 2 講演会「映像文化の潮流—もう一つの、極小かつ膨大な映像史—」開催

七月十一日、本学アート・リサーチセンターと映像学部等の共催により、標記の講演会が行われました。

講師は、映像史研究家の松本夏樹氏と、活動弁士・映写技師の小崎泰嗣氏。コーディネー

ロデュースのための実習科目、実践的なインターンシップなどが用意されています。

映像分野の実力者が教育に参加

映画界やCG・ゲーム業界、テレビの制作現場などで、多大な功績をあげてきた実力者の方々の協力を得て、多彩な実践学習を展開しています。

◆山田 洋次 客員教授

下の写真は二〇〇二年アカデミー賞（アメリカ）にノミネートされた「たそがれ清兵衛」を松竹京都映画で撮影中の山田洋次監督。客員教授として、映像学部講義や学部の教育・研究にご協力いただいています。



◆陳 凱歌 客員教授

「さらば、わが愛／霸王別姫」でカンヌ国際映画祭パルム・ドール賞を受賞した中国映画界の旗手・陳凱歌監督を客員教授に招聘。監督などを語っていただきます。



◆北原 聡 教授

CGの国際会議「SIGGRAPH（シググラフ）」（アメリカ）で五年連続入賞。世界的に評価の高いCGアニメーションクリエイター。CG制作の講義を担当します。



◆望月 茂徳 専任講師

CGやインタラクティブCGの技術開発が専門。二〇〇四年には手がけたデジタル万華鏡の開発で、情報処理推進機構（IPA）の未踏ソフトウェア創造事業の「天才プログラマー／スーパークリエイター」に認定されました。



企業と連携した人材育成

映画会社、映画制作会社、ゲーム会社などと提携して、実践力やキャリア意識が身につくインターンシップを推進しています。松竹、松竹京都映画とは既に「連携基本合意書」を締結。撮影所でのインターンシップ受入れなどご協力をいただきます。また、任天堂からはゲーム開発ツールの提供を受けることになりました。

クリエイティブ・リーダーシップ・セミナー

映画監督やプロデューサー、ゲームやCGのクリエイター、エンタテインメントビジネスのリーダーを招いて連続ゲスト講義を行います。トップクリエイター、リーダーによる講義は、映像分野の広がりとともに、映像制作の背景を理解し、キャリア意識を養います。

豊富な演習・実習授業

一回生から多くの演習・実習授業を配置しています。映画やゲーム、CG、VR（バーチャルリアリティ）などの映像制作にかかわる基礎を学び、上回生でより実践的な映像制作を学ぶことが可能となる実践的な演習・実習プログラムです。



ターは富田美香映像学部准教授。

映像文化が日本に入ってきてから間もない二十世紀初期に日本人が見ていた映像（スライドのような「幻燈」・短い無声映画、日本最古のアニメーションなど）を、ソフトも機材も当時の貴重なものを使用して上映。道徳教育用や家庭娯楽用の幻燈などを見ながら、何が、誰によって、どんな意図のもとに上映されていたのか解説され、本学の学生・院生のほか、一般市民も参加して聞き入りました。



TOPICS 講演会「体験型エンターテインメント・創造性と技術」開催

この講演会は、七月十二日、映像学部開設記念連続講演会の第四回として行われました。アメリカのセントラル・フロリダ大学から、体験型展示映像（テーマパークや博物館等で使われる、人工現実感等を利用した映像）の研究者兼プロデューサーであるクリストファー・ステイプルトン氏を講師に迎えました。コーディネーターは大島登志一映像学部教授。



コンピュータグラフィックス、人工現実感、複合現実感といった双方向型映像技術の歩みや、それが体験型エンターテインメントにもたらす発展可能性等について、すべて英語で語られ、英文レジュメを事前に予習して臨んだ映像学部生らは、アカデミックな経験に満足そうでした。

清武英利

さん(75歳)

体当たりの記者修行時代

鮮やかなグリーンがまばゆい東京ドーム内。夏休みとあって、午後三時を回った頃にはスタンドに家族連れが姿を見せ、選手たちもウォーミングアップを始めた。

清武 記者時代、夏の日にたまたま早く家に帰れると、「おっ、間に合った」と、ビールと枝豆を友にテレビで野球を観て楽しんだものです。日本人の暮らしに根付いた文化ですよ、野球は。今はね、バックネット裏にある通称「金魚鉢」という特別の小屋屋で観ているんです。ここが私の、大切な職場ですから。

かつて読売新聞社会部のエース記者として活躍していた清武さんが、日本球界激動の最中に読売巨人軍の代表に就任してから、はや三年が過ぎた。巨人軍は球界の「巨人」であるがゆえに、憧憬や羨望のみならず、ともすればその逆の感情も入り混じった数多の視線や言葉が常に投げかけられる。清武さんはそれを受け止め、夢を掲げて進んできた。

百八十度の転身と言っても過言ではなからうに、力の源はどこにあるのか。新聞記者を志した頃に遡って伺おう。

清武 どうして新聞記者になったのかって？ 強いて言えば、人よりも早く、物事の核心になるべく近い部分を知りたいという気持ちがあったからでしょうか。それから、自分には他の可能性もあるかもしれないとも思っていました。モラトリアムとは違うんですが、記者として社会のあちこちに目を向けることで、見聞を広め、考えを深められるだろうと。

私は経済を学んでいました。当時はまだマルクス経済学の時代で、学生運動の余波も残っていた。社会を洞察しながら、学問以前に根本的な意識として、正義が通る社会であってほしいと願っていました。けれども、実際は矛盾の多いことを肌で感じて、すんなりと普通の企業人になることはできないと思っていました。当時は、多かれ少なかれ、みんなそうだったのではないかなあ。みんな迷いながら社会に出ていった時代でした。

記者の仕事の大変さは巷で語り草になるところだ。ユーモアを交えて語ってくれたこの実話は、人がイメージするよりも、もっと地味で厳しい実情を教えてくれる。

清武 あの修行時代は、辛かったなあ。夜討ち朝駆けとか。もう一度やれと言われてもできません（笑）。初めの七年間は青森支局。その後本社に上がって本場の修行が始まりました。私は警視庁記者クラブに所属し、文字通りいつもいつも、地道な取材を続けていました。

警視庁の担当だった頃、日曜日の夜は、お巡りさんのお宅で大河ドラマと一緒に見ていたんです。番組の途中で話しかけると、「うるさい！」と叱られる。だから終わってから「あの事件どうなっていますか？ これはどうですか？」と、二十分くらい話して、帰ります。朝は朝で、ハイヤーのトランク

何が正しいかを問い、
そして「清朗」でありたい



にミニサイクルを積んで出かけた
り、新聞販売店から自転車进行
る算段をつけておいたりして、お
巡りさんをお宅の前で待つ。そし
て駅まで自転車で行くお巡りさ
んに並走して、話を聞く。この十
分、十五分がとても貴重なんです
よ。人に話を聞くということは、その人の貴
重な時間をいただくことです。手短と内
容をよくよく工夫しなければ失礼です。それ
がいつしか、余暇のない中で楽しみに変わ
りましてね。取材に応じてくださる方と、信頼
関係に基づいてきちんとした話ができるとき
は、とても嬉しかったですね。

自分を賭けたスクープ

一九九一年、清武記者の転機となる事件が
起こった。いや、起きたのではなく、眠り続け
るはずだった事実を清武記者が掘り起こし、
社会に問うたと言わなければならない。

清武 私は、複数の大手証券会社が大口顧客
に対して巨額の損失補填を行っていたことを
書きました。顧客に売ったものの、暴落して
しまった株式を、証券会社は高値で買い戻し
ていたんです。一年近くこつこつ取材した成
果でした。

でも当時の証券業界は、そんなことは当た
り前だ、何が悪いのかという反応でしたし、マ
スコミ他社も当初の数日間、補填という行
為に理解を示す論調のほうが多かったです。
私は、自分が孤立するかもしれないと思いま
した。しかし「おかしい」という気持ちは揺
るぎませんでした。国税当局が補填分を大口
顧客に対する寄付金や交際費であるとな
していたことも調べてあったので、記事に説
得力を持たせることができました。そして四

Rits



日目に、まず野村証券の社長が辞任に追い込まれ、その日の午後には、日興証券の社長も退陣したんです。自分の書いた記事が、大会社の社長の命運を左右した。もちろん、一記者としての私も、首を賭けていました。

このとき、「社会の常識は必ずしも正しくない。自分の内なる常識や感覚を信じるのが大切だ」と、身に沁みてわかったんです。その後もいろいろありましたよ。デスクになってからも、次から次へと。

「運動部長」そして「巨人軍代表」

一九九〇年代後半、金融業界では時に官まで巻き込んだ不祥事が度々起こり、四大証券の一角が破綻した。清武さんに休む暇はなく、気がつけば二〇〇一年に中部支社社会部長、その翌年には本社の編集委員になっていた。そして、さらに二年後の二〇〇四年に受

け取ったのは、本社運動部長就任を命じる辞令であった。

清武 ライターとして王道を歩みたいという気持ちでいっぱいだったので、正直、意外でした。でも私にとって、新しい環境で仕事を耕すのは、とても面白いことなのです。

二〇〇四年、プロ野球界が、合併・再編問題に揺れていたのはご記憶に新しいと思います。私が運動部長になるとすぐに、新興ＩＴ企業が新規参入の名乗りを上げてきました。私は「野球再生」という連載を始めました。球団の赤字、再編問題の背景には、人々の野球離れがある。ではどうすれば、プロに限らず野球界は元気を取り戻せるのか。いろいろ調べて問題提起してみようと。やっていくうちに、これが非常に面白くなってしまつて、どんどのめりこみました。何かに導かれたとも言言つたらいいか…。一時期ちょっと頼むと言

われたポストだったのですが、何となくやり過ぎすことは、私の性格上できなかった。二〇〇四年夏には、アテネオリンピックもあった。取材から帰った清武さんを待っていたのは、再びの、驚きの辞令だった。

清武 球団代表なんて。さすがに、まさか巨人軍に入るとは考えてもみませんでしたからね。「野球再生」の連載用に記者が書いてきたものに真剣になって手を入れて、「ファンと球団の交流の機会を増やそう」などと自分の理想を盛り込んでいたところに、「君が自分でそれをやってみろ」と言われたようなものでした（笑）。

入団してまず考えたのは、野球ファンの裾野を広げたいということでした。プロ野球界にできるのは、チーム数を増やすか、選手の数多くするかです。私は巨人軍再建の夢も込めて、「三軍」のようなものを作りました。広島カープと協力して、十二球団の同意を得て、「選手育成制度」というものを。一軍でも二軍でもない、育成選手のチーム「フューチャーズ」。将来的には、そのチームはプロとアマの両方の顔を持つようにして、クラブチーム登録ができればいいと思っています。

私は、プロとアマの間にはどうしてこんなに壁が多いのかと不思議なんです。それを取り払うことが野球界の活性化につながるんじゃないかと。「フューチャーズ」はプロとして交流戦もやり、活躍した選手は上にあげていく。時にはアマの大会で、例えば「欽ちゃん球団（茨城ゴールデンゴルズ）」や社会人チームと戦って勝ったり負けたりする。こういう機会が増えれば、楽しいと思いませんか？

野球界には、「プロ野球チームには一軍だけあればいい」という、対極の考え方もあるんです。興行で収益を上げるのは一軍なので、

Hidetoshi Kiyotake



清武 英利さん

- 1950年 宮崎県に生まれる。
- 1975年 本学経済学部卒業。
読売新聞社に記者として入社。
青森支局へ。
- 1984年 東京本社社会部へ。
警視庁記者クラブ、国税庁記者クラブで
経験を積み、主に経済事件関連を取材する。
- 1991年 大手証券会社の損失補填の実態をスクープ。
- 2001年 中部本社社会部長。
- 2002年 東京本社編集委員。
- 2004年 6月、東京本社運動部長。
8月、読売巨人軍取締役球団代表。
現在に至る。

<http://www.giants.jp/>

Ritsumex' 07 オール立命館デー in 東京で 清武代表に会おう

オール立命館デー in 東京

「Ritsキャリア対談 ―先輩校友からのメッセージ」に清武代表が登場されます。ぜひご来聴ください。

詳しくは校友会HP

<http://www.ritsumei.ac.jp/mng/al/>
から[オール立命館デー in 東京]のページを
ご覧下さい。

- 11月4日(日) 12時～ 13時30分
- 東京国際フォーラム B5ホール
- 入場無料
- 講演テーマ:「非凡と平凡の間 ―プロフェッショナルの世界」

清武 私は、記者時代に培った信念をずっと持ち続けたいと思っています。長い間の「球界の常識」が本当に正しいのか、私は問うているんです。例えば、巨人軍は選手がフリーエー

時には、先入観や誤解に基づく批判も聞かえてくるが、かつて幾度も真剣勝負に勝ち抜いてきた清武さんは、ものともしない。

「信念」に育まれた「可能性」

一軍のスペアとしての二軍があればそれでいい。二軍には一軍選手の半数くらいいれば十分だ。でも、これでは絶対に野球界の発展は望めない。私の夢とは全然違うんです。私は率直に夢を語るから、ぶつかることも多いです。十二球団が足並みを揃えることも、あまり度が過ぎるとブレイキになってしまう。もう護送船団方式ではだめなんだと、みんな薄々わかっているはずなのに……。私はできるところからどんどん改革していくべきだと思います。

巨人軍について言えば、「清朗なる常勝軍団の建設」が目標です。巨人の行動規範は、「紳士たれ、強くあれ、アメリカ野球に追いつけ追い越せ」という正力松太郎遺訓なのですが、私はそれに「清朗たれ」という言葉を付け加えようと思います。清々しく、明朗であれ。そして、第四期黄金時代を目指したいです。幸い今年は、チームに勢いがあり、立命館から入ったルーキーの金刃も良く頑張っ

ジェントとなる権利を得るための期間を短縮すべきだと言っています。人を長期間拘束するのはおかしいでしょ。読売の記者になった私が、九年間は絶対に他社には移れないぞと言われたら、人権問題でしょう(笑)。新人ドラフト時に若者たちの希望など聞く必要はないという球団がありますが、どんな時代も人間の希望が優先されるべきでしょう。私はただ、人間は自由であるべきだと考えているだけなんです。では在籍何年ならばよいのか、不正防止との兼ね合いはどうすべきか、こういう理屈は、皆さんとよくよく議論したいと思っています。

てくれて。いま七勝(※)ですが、チームにとつては十勝以上の価値があるんじゃないかな。嬉しいですね。



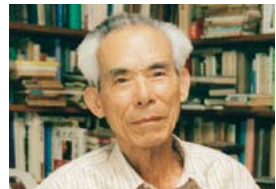
金刃憲人投手('07産社) [写真提供: 読売巨人軍]

今シーズン、ペナントレースをリードする巨人軍。清武さんのこれまでの努力は今年報われ、巨人軍と日本球界に元気を取り戻してくれることだろう。そして清武さんの中では、若き日に感じ取っていた「記者以外の可能性」が、大きな実を結びつつあるのだ。

(※)八月二十八日現在

恩師の窓

恩師の近況や人となり、思い出を、教え子が紹介します



にし かわ とみ お
西川 富雄先生

名誉教授(文学部)
在職 1953年～2001年
19世紀ドイツ哲学

先生からの一言

卒業生諸君! お元気ですか。いろんな分野で活躍していて、在学中、一見無用と思えた哲学がどこかで役立っていることを噛みしめている人も多いことでしょう。小生、長い立命館生活を振り返って、『哲学教師の五十年』という小書を出しました。折があれば読んでみてください。



教え子
森 茂明
(63文)
民権もり上げ主人

六

十年安保の年に哲学科に入学したものの、学園紛争に背を向け、学業もそつちのけで、日本各地の山河に溪流魚を追いつながら、もっぱら山釣り三昧に明け暮れた。

卒業後も、山暮らしの夢去りがたく、日本一のかやぶき屋根が残る美山町という山村に家族そろって移り住んだ。ここでコメや青物をつくり、住まいのかやぶき農家を民宿に改めて細ぼそと暮らしを立ててきた。

長男・長女ふたりをムラの保育所から高校へと通わせ、大学の方は、本人の志望で本学文学部を受験し、よりによって哲学科に入学した。しかも、卒論の担当教員はふたりそろって、かつての親の恩師であった西川富雄先生であった。この師弟の紐帯ともいべき不思議のえにしを機縁に、「立命館大学哲学同窓会」に入会し、また「梅原猛、西川富雄先生を囲む忘年会」にも毎年参加することになった。

「森君、息子さんの卒論はお父さんのよりよくできていたね」とあるとき西川先生に言われた。NHKテレビの報道カメラマンとなって社会人として活躍しているわが息子への賛辞のつもりだろうが、親子関係にあっても同じ教鞭をうけたライバルだけに、複雑だ。

片田舎のわが家を足しげくお訪ねになるのは、親子二代にまたがる恩師の奇縁もさることながら、先生が農家出身の境涯で、土の匂いの染みついた懐かしい「土の思想」から通れられないからだろう。日本のシェリング哲学の第一人者たる先生は、シェリングの自然哲学を凌駕して、新たな環境哲学という、われわれ人間を「*ウムヴェルト*」について深い思索をはじめられた。



し お た ち か ふ み
塩田 親文先生

名誉教授(法学部)
在職 1955年～1995年
商法

先生からの一言

企業に関係のある法律の制定や大改正の頻度が高くなり、後追いに振り回されているこの頃ですが、ゼミの卒業生との久闊を叙する機会を何よりの楽しみにしています。皆さんの益々のご健勝とご活躍をお祈りします。



教え子
新川 正幸
(64法)
エース(株)監査役

去

る七月七日、立命館朱雀キャンパスで第三十一回塩田ゼミOB会が開催された。ホテルのようなロビー、広い廊下、最新機器を備えた教室等、昭和三十八年に広小路旧校舎で、当時新進気鋭の助教授であった塩田先生のゼミ(講義も)を受けた私にとっては、正に隔世の感を深くした。当時の商法・塩田ゼミは、企業の組織や活動に関してマスコミでも大きく取り上げられた諸判例の研究が中心であった。実業界に就職を志望していた私は迷うことなく塩田ゼミを選び、「類似商号」をテーマにして最初に発表したことを記憶している。

昭和五十二年、加藤健二氏、川端健嗣氏、川端豊氏が中心になって、塩田ゼミOB会が結成され、毎年京都で開催を続けている。これは偏に塩田先生の魅力でもあるお人柄によるものである。毎回OBの中から報告者が選ばれ、各自の専門分野やタイムリーな問題について話され、学生時代のゼミ発表を彷彿とさせるものがある。各地からの参加者の中に、札幌から毎回参加される人もいるのは、ゼミOB会で得るものが少なくないからであろう。塩田先生が立命館を定年退職後、鈴鹿国際大学に在職中にOB会を鈴鹿で行い、その夜は湯の山温泉で一泊し、翌日は御在所山を散策するというツアーもあった。

塩田先生は、現在弁護士として幅広く活躍されているが、「*やぶにらみ*」という俳号で俳句結社「蟻乃塔」を主宰されていることは知る人ぞ知るところである。京都府の長岡天満宮、兵庫県の綾部山梅林、三重県の芭蕉の森に蟻乃塔の会員によって句碑が建立されている。

毎回OB会に出席されている奥様共々、いつ迄もご健康で、ご活躍されることを祈念するばかりである。

自由席

心のおもむくままに、言葉を紡ぎましょう

立命館大学交響楽団 定期演奏会を訪れて

仲 治實（69歳）

六 月二日の宵、立命館大学交響楽団が京都コンサートホール大ホールにて第九十七回定期演奏会を開催されました。卒業後久方ぶりに出掛け、至福のひと時を享受する事が出来ました。

注目の、ベートーヴェンの交響曲「運命」。演奏が終わると、会場の全方向から割れんばかりの拍手とブラボーの風が沸き起こり、団員は鳴り止まない拍手と歓声を受け続けていました。

感想は「驚愕」の一言につきます。素晴らしい演奏でした。私の在学当時の立響を思うと、正直、隔世の感を禁じ得ませんでした。力強い演奏、団員の晴れ姿、そしてその迫力あるサウンドは、未来に向かって発展・躍進する母校立命館を表しているようであり、文化、芸術の香りみなぎる母校の姿を実感致しました。

私は学生時代、立響と同じく芸総部のクラブである軽音楽部に所属していました。お世辞にも美しいとは言い難く、時には弦が

切れ音程が狂ったピアノのあった広小路の学生会館で、立響と同じように練習しておりました。記憶では両クラブとも部員不足の悩みを抱えており、現在の部員数の多さ、とりわけ女子部員の増加には時代の変遷を感じます。

クラブ所有の楽器は、打楽器等個人では所有し難い楽器のみでした。当時の学生は安物の楽器しか所有しておらず、私自身親に無理を言って買って貰った覚えがありますが、仕事が多忙なため音楽活動は休止中でその楽器は二十余年余り私の宝物として今も納戸に眠ったままの状態です。今、再度入学が可能なら、立響に入団し



【写真提供：立命館大学交響楽団】

たい思いにかられました。

後日、現団長の寺田卓矢君（政策3）からお話を聞く機会を得て、立響が節目節目に編纂された記念誌も頂戴しました。以下に記念誌から掻い摘んだことも交えて紹介致します。

立響は一九五四年、現役十三名とOB十三名で創団。五十三年目の現在は約百六十名の団員を抱えるまでに成長し、文化学術サークルとして学内屈指の規模を誇っています。技術面では、幼少期や中高時代からの経験者が多数いるそうですが、楽器によっては殆んどが初心者というパーストもあります。それでも本人の努力と先輩団員やOB、歴代の指導者による熱心な指導により、上級生になる頃にはものになって行くそうです。

一九七七年より入学式に、後年には卒業式にも毎年参加し、特に入学式での演奏は多くの新入団員の確保につながっています。定期演奏会のほか、学内外から演奏依頼があれば積極的に応じ、また、ベートーヴェン「第九」の演奏会も男声合唱団メンネルコール・混声合唱団メディックス等との共演で過去四度行い、大いに誇りにしているそうです。

次にOB・OGと現役生との交流を紹介します。二〇〇四年より、若い卒団生と現役生が参加する「立響ミュージックキャンプ」(略称RMC)と呼ばれる音楽合宿がOB会と連携して毎年開催され、卒団生と現役の垣根を越えた活動が目指されております。遡って一九九二年には卒団生有志により「衣笠交響楽団」(略称衣響)が結成されています。今年も十五回目の公演が開催され、現役団員への刺激にもなっているそうです。

寺田団長によれば、現在の立響は、学業との両立を図りつつ、衣笠キャンパスを中心にBKICでも日々練習に精励しており、OB・OGや指導者の皆様、そして大学や地域からの物心両面の支援に恵まれて、数ある大学オーケストラの中でもとりわけ幸福な環境下で活動しているとのことですが、しかし、練習場所の調整や経済的負担の面は、今でも大変で、他の芸術系団体も同様の問題を抱えていると聞いております。

皆様も立響はじめ学生団体の演奏会や文化イベントに是非お運び頂き、立命館の学生文化の発展のためにご支援を賜りますようお願い申し上げます。

立響の公式サイト

<http://ruso.s297.xrea.com/>

オール 立命館デ.. in 東京 RITSUME X '07

2007年11月4日(日) 11:00 - 17:00
会場: 東京国際フォーラム JR有楽町駅より徒歩1分

東京に立命館がやってくる!
校友大会に加え、多彩なステージやオープンキャンパスなど企画が盛りだくさん!
立命館の「いま」と「チャンス」が満ちあふれるこの日、みなさま、ぜひご来場ください。



Program

ホールB7で	ホールB5で	地下展示ホールで	ガラス棟6Fで
    12:00 ▶ 13:30 オール 立命館デー in 東京 RITSUMEX'07 開催記念対談 京都のちからと立命館 池坊由紀氏 (次期家元) 村田吉弘氏 (菊乃井主人) 瀬木直貴氏 (映画監督) 陰山英男 (立命館小学校副校長) 司会:小林綾子氏 (女優) 本郷真紹 (立命館副総長)   15:30 ▶ 17:00 【校友限定企画】 ALL-Rits 立命館校友大会2007 年に一度、全国の校友が 一堂に会するチャンス! 立命館史上初の東京開催!! ばんばひろふみオンステージ/ 立命館大学&APU学生団体イベント 他 司会:長谷川豊氏 (フジテレビアナウンサー)	12:00 ▶ 13:30 Ritsキャリア対談 先輩校友からのメッセージ 井辻秀剛氏 (コカ・コーラカスタマーマーケティング聯社長) 清武英利氏 (読売巨人軍代表) 司会:長谷川豊氏 (フジテレビアナウンサー)	11:00 ▶ 12:30 Ritsメモリアル対談 倉木麻衣氏 (アーティスト) 有賀郁敏 (産業社会学部教授) 司会:近藤祐司氏 (スポーツアンカー)  13:00 ▶ 14:30 生命科学・薬学部開設記念 サイエンスフォーラム <事前申込制> 基調講演 中村桂子氏 (JIT生命誌研究館長) トークセッション 「身近なふしぎを考えてみよう」 真鍋かをり氏 (タレント) (予定) 他 学生パフォーマンス② 14:40~ Dig Up Treasure 他 15:30 ▶ 16:30 輝けAPU! なぜ、APUは人材の 宝庫なのか? 国際色あふれる パネルディスカッション 学生パフォーマンス③ 16:40~ チャリダー部	11:00 17:00 Rits・APUオープンキャンパス in 東京 高校1・2年生、そして受験生と保護者のみなさまに、立命館の「いま」をお伝えします。 大学・入試説明会/入試対策講座/入試専門スタッフによる個別相談ブース 他 11:00 17:00 京都みやび展 京都の地で長い年月をかけて培った文化、「みやび」を東京へ! 茶道研究部「お手前」体験/井堂雅夫「京都百景」版画展/北奥耕一郎「京艶」写真展/歴史回廊パネ展示 他 13:30 15:30 日本一の学生に挑戦! かるた/囲碁/将棋 14:00 15:00 京都学講座

※下記の【校友限定企画】は、チケット制による立食スタイルのイベントです。

ALL-Rits 立命館校友大会2007 チケット 5,000円 (税込) ▶ 昭和63年以前にご卒業の方

ALL-Rits キャリア交流サロン チケット 3,000円 (税込) ▶ 平成元年以降にご卒業の方

チケットお申し込み方法: 下記のホームページアドレスからお申し込みください。

<http://www.ritsumei.ac.jp/mng/all/>

お問い合わせ先: 立命館大学校友会事務局 (校友・父母課)

〒604-8520 京都市中京区西ノ京朱雀町1番地 TEL 075-813-8216 (直通)

会場: 東京国際フォーラム

JR有楽町駅より徒歩1分

〒100-0005 東京都千代田区丸の内3-5-1

TEL 03-5221-9000 (代表)

※イベントの内容および出演者は変更になる場合があります。

オール立命館デー in 東京

RITSUMEX '07

東京駅方面

リツメックス
RITSUMEXって何?

2002年から京都駅前で行われてきた

ALL-Rits 立命館校友大会がまるごとグレードアップ!

オール立命館デーin東京 RITSUMEX'07とネーミングも新たに、
立命館をこよなく愛するみなさまへエキサイティング(EXciting)で
エクセレント(EXcellent)な1日をお届けします。

いままでの校友大会のプログラムだけでなく、
著名な校友による講演や現役学生のパフォーマンス、
受験生を対象にしたオープンキャンパスなど、
それは、もう、企画盛りだくさんのビッグイベント!!

東京国際フォーラムに立命館パワーがあふれるこの日、
校友と学生が一体になって生みだすエネルギーと
広がるネットワークを存分に感じてください。

ホールB7

12:00 ▶ 13:30

オール立命館デーin東京 RITSUMEX'07

【記念対談】京都のちからと立命館

京都に生まれて100余年。京都の地と立命館のきってもきれない
関係がいま明かされる!

池坊由紀氏(次期家元) 村田吉弘氏(菊乃井主人、'74産社)

瀬木直貴氏(映画監督、'87文) 陰山英男(立命館小学校副校長)

司会:小林綾子氏(女優、'95文) 本郷真紹(立命館副総長)

15:30 ▶ 17:00

【校友限定企画】

ALL-Rits 立命館校友大会2007

憧れの先輩と、あのこと苦楽を共にした学友と、会いたかった
あのひと、青春を語りあおう。

ばんばひろふみ('73経済) オンステージ/立命館大学&APU学生団体イベント 他

司会:長谷川豊氏(フジテレビアナウンサー、'99産社)

ホールB5

12:00 ▶ 13:30

Ritsキャリア対談 先輩校友からのメッセージ

これからの時代を切りひらく“ほんまもん”になるには何が必要か、
この90分で見てくる!

井辻秀剛氏(コカ・コーラカスタマーマーケティング課社長、'84経営)

清武英利氏(読売巨人軍代表、'75経済)

司会:長谷川豊氏(フジテレビアナウンサー、'99産社)

15:30 ▶ 17:00

【校友限定企画】ALL-Ritsキャリア交流サロン

業界を超えてネットワークが広がる。新たなビジネスチャンス
を求める人も、ぜひご参加を。

ゲスト:王理恵氏(野菜ソムリエ)

ガラス棟6F

11:00 ▶ 17:00 京都みやび展

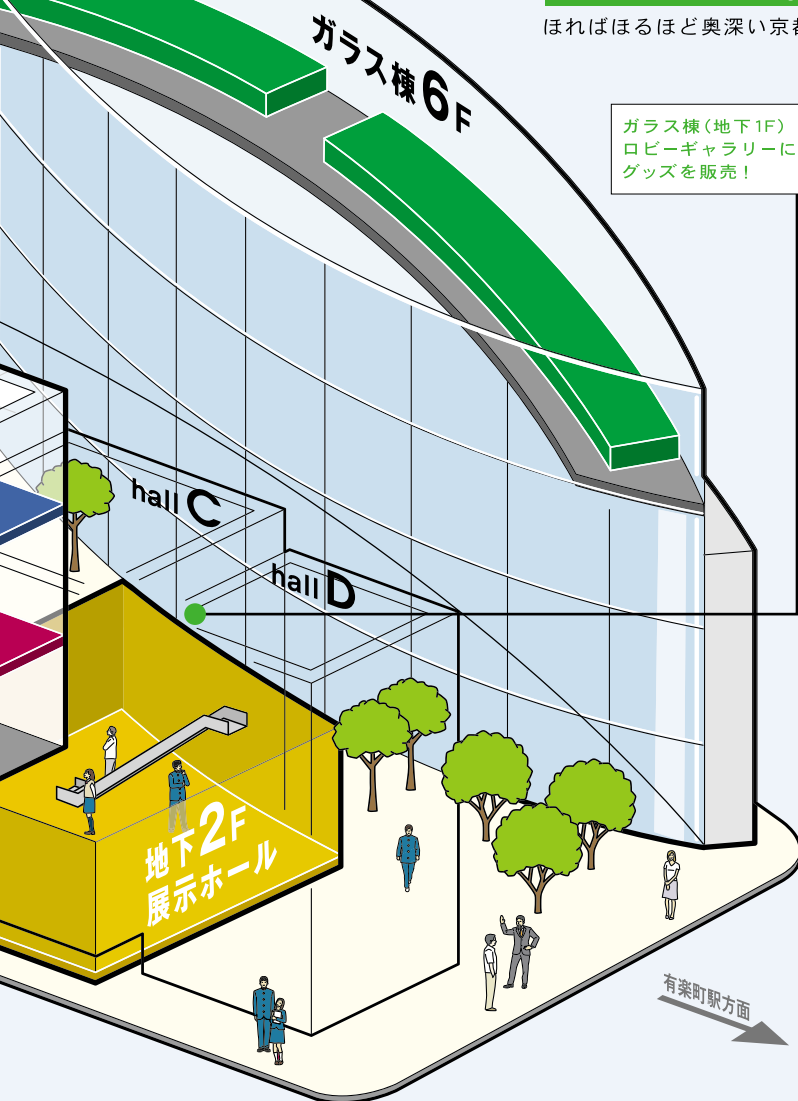
東京にいながらにして京都を味わいつくす。こんなゼイタク、きっと他では体験できません。
茶道研究部「お手前」体験・井堂雅夫「京都百景」版画展・北奥耕一郎（'71法）「京艶」写真展 他

13:30 ▶ 15:30 日本一の学生に挑戦！

かるた、囲碁、将棋。日本一の称号をもつ強者たちがせいぞろい。どこまで挑戦してみる？

14:00 ▶ 15:00 京都学講座

ほればほるほど奥深い京都学。ビジネスで、プライベートで、会話のネタに役立ちますよ。



ガラス棟(地下1F)
ロビーギャラリーにて
グッズを販売！

地下展示ホール

11:30 ▶ 12:30

Ritsメモリアル対談

倉木麻衣さんと有賀郁敏先生によるコラボレーション！
これはメモリアルな体験になりそう。

倉木麻衣氏（アーティスト、'05産社） 有賀郁敏（産業社会学部教授）

司会：近藤祐司氏（スポーツアンカー、'96経済）

13:00 ▶ 14:30

生命科学・薬学部開設記念

サイエンスフォーラム <事前申込制>

人びとの幸せを支えるために、科学のチカラで何ができる
だろう。いっしょに考えてみよう。

基調講演

中村桂子氏（JT生命誌研究館長）

トークセッション「身近なふしぎを考えてみよう」

眞鍋かをり氏（タレント）〔予定〕他

15:30 ▶ 16:30

輝けAPU！なぜ、APUは人材の宝庫なのか？

まさに、ワールドエキスポ！国際大学APUのありのままの
魅力をたっぷりお伝えします。

11:00 ▶ 17:00

Rits・APUオープンキャンパス in 東京

立命館をめざすあなたに、立命館のすべてをしっかりお見
せします。受験は、先手必勝！

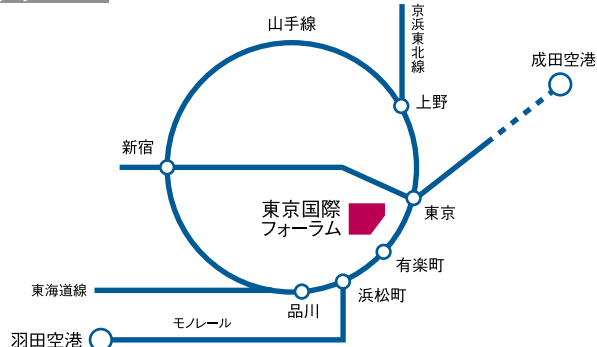
大学・入試説明会・入試対策講座・入試専門スタッフによる
個別相談ブース 他

11:00～／14:40～／16:40～

学生パフォーマンス

東京国際フォーラムを舞台に学生たちが大活躍！
憧れの先輩が見つかるチャンスかも。

アクセス



JR線

有楽町駅より徒歩1分／東京駅より徒歩5分
（京葉線東京駅とB1F地下コンコースにて連絡）

地下鉄

有楽町駅より徒歩1分
（出口D5とB1F地下コンコースにて連絡）

成田空港から

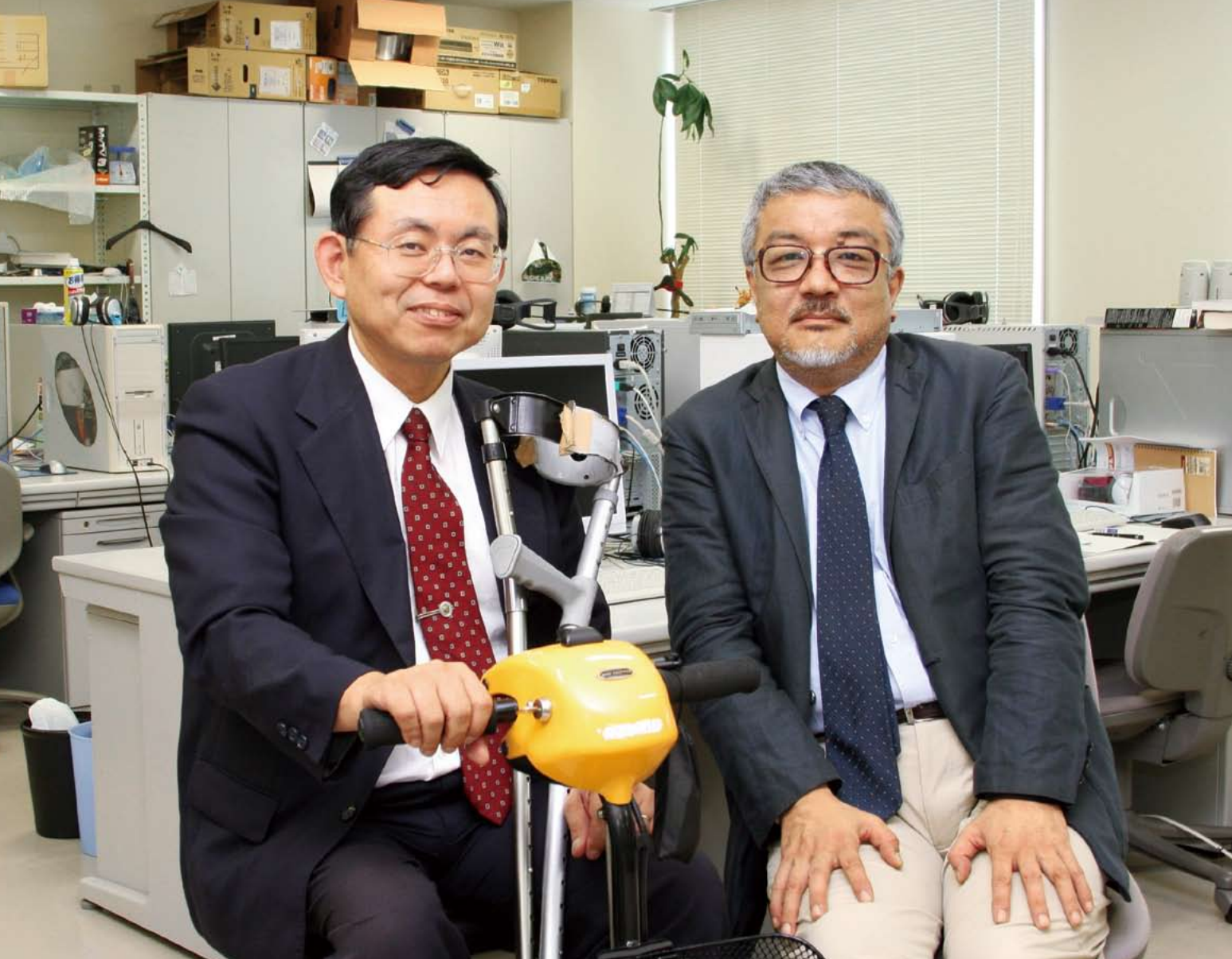
リムジンバス 東京駅まで80～90分
JR成田エクスプレス 東京駅まで53分

羽田空港から

モノレール浜松町駅まで23分
JR浜松町駅より有楽町駅まで4分



※イベントの内容および出演者は変更になる場合があります。



学びの交差点

新しい対人援助と 情報通信技術

望月 昭 文学部教授(兼・大学院応用人間科学研究科教授)

樋口 宜男 情報理工学部教授

新時代の「対人援助」

望月 樋口先生のその電動カート、いいですね。とても小回りが利きそうで、使いやすそう。何だかちょっと乗ってみたい気分になります。

樋口 普段は杖でも大丈夫なんですけれどね。キャンパス内をあちこち移動する時などは、これを使っています。教壇へも、これに乗っていくんです。このBKCは、さすがに新しいだけあって、ハード面（施設等）のバリアフリーが進んでいてとても楽なんです。こういう良いところはもっと宣伝されてもいいのになと思っています。とはいえ、いろいろな障害に真に向き合っているんです。アフリーを実現しようとすると、まだまだ難しいですよ。僕のような肢体不自由者に対しては、ハード面の対策でおおかた済みですが、視覚障害や聴覚障害の人には、別な面での支援が必要ですからね。例えば、ノートをとる手助けをする人をつけるといったように。

望月 先生も私も、「障害」を研究のキーワードの一つにしているということで、樋口先生のごことは存じ上げてはいたのですが、じっくりお話しするのは初めてですよ。

樋口 そうですね。望月先生は対人援助学、私は情報通信工学ということで畑が違うので、これまでほとんど接点がありませんでした。先生のご研究について教えていただけますか。

望月 私は実験心理学から出発しました。行動分析学といまして、大雑把に申しますと、人間や動物の行動を記録・観察しながら、環境をどのように変化させれば、行動がいかに変わるのかを分析するということをしておりました。大学院を修了して母校で助手をしていた頃に、ダウン症や自閉症の子供と接するようになり、その後、愛知県心身障害者コロニーの発達障害研究

所能力開発部というところに就職してから、障害をもった人たちの支援に本格的に携わるようになりました。

そこでは、比較的障害が重い、例えば知的障害と聴覚障害とを併せ持つような人が、言語的コミュニケーションを実現するためにはどうしたらよいか、周囲はいかに援助をすればよいかとか、重度の障害者の自己決定権を擁護するためには、といったことを、長い時間をかけた実験的実践を通じて研究していました。

従来の心理学は、いろいろな教授法や、個人の能力開発のテクニックを生み出してきました。私も初めのうちは、それらの技法を駆使して、「何かを下さい、何かをして下さい」といった要求言語などを教えまして、彼らが何とか簡単な日常会話をできるようにならないかと、まあ耳の聞こえない人たちなので筆談や手話になるのですが、ずいぶん頑張ってみたのです。訓練そのものは、実験室や訓練室の中では、さほど苦労なくできるのです。ところが彼らが日常生活の場に戻ると、実験室ではできたはずのその行動が全然出てこなかった。どうしてだろう、訓練不足なのだろうか、さらに練習したり、より日常に近いところで訓練してみたり、いろいろと試みましたが、やっぱり日常生活にさほど変化はみられませんでした。

そこで発想を変えました。日常の方が、訓練の場に近づくように変わらなければいけないのではないかと。日常にはないけれども訓練の場にはあるものを探し出していこうと。訓練の場は、理想的な環境を発見するための「アクティブなシミュレーション」の場なんだと。実際、よく分析してみると、彼らが言語行動を自発するきっかけは、周りの人のふとした仕草だったんです。周りの人が、「どうしたの?」と、指をちよつと動かしながら手を出してくれる、手を出すというのは、その人たちが文字を書くからですね、その仕草があ

れば、彼らからパツと言葉が出たんですよ。

つまり、本人のトレーニングをゴリゴリやらなくとも、周囲がちよつと変わればいいんだと。従来の心理学では、個人が環境に適応することを考えていた。でも、もうそれだけではだめなんだ。最近は学校などでも、教育とか療育ではなくて「支援」という言葉を使います。支援、つまり助ける過程では、本人がきつい努力をしなくても行動できるような環境を整えること、それを最優先にしよう。

こういう意味では、従来の心理学とは違いますが、マクロな意味での福祉学とも違うわけですね。我々は障害のあるその人がやりたいと思っていることを実現するために必要な環境設定を心がけています。

樋口 いま環境を変えようと伺って、たとえば家の構造を変えるなどの物理的な面をイメージしてしまったのですが、そうではなくて、周りの人の対応を変えていこうということですね。

望月 「環境」の意味はいろいろで、物理的な環境、人的環境、制度の問題までも含まれます。例えば昔の聾学校では口話の練習がまず第一だったのですが、今では手話も認められるようになりました。本人にとって負担の少ない形に、今の例では手話を使いたいというルールにすることなんです。樋口先生が開発される便利なシステムの利用も、もちろんここで言う環境にあたります。すると行動の選択肢も増えていくでしょう。これが対人援助の進歩なんです。心理学者がトレーニングの方法ばかり開発しても、それだけではニーズに合わないのです。

障害者への支援に携わるのは、いまや心理学出身者ばかりではありません。ケースワーカーなど福祉の世界の人、あるいは就労支援をしてくれる企業の人など、いろいろです。これまでいわば別々の行動基準やボキャブラリーをもって

望月 昭



る極めて稀な存在です。当事者兼専門家としてすべきことがあると、海外に行つてはじめて目が覚めたんです。

僕は自分の研究に、「第三次産業的福祉工学」と名前をつけているんです。階段をなくすとか車椅子の機能を良くするといった第二次産業的なことは、ありがたいことにずいぶん進歩してきましたよね。だからこれからは、情報通信の技術を応用して、障害者にも老人にも優しくて便利な道具や仕組みをつくっていききたい。それはもちろん、健常者の生活にもとても役立つはずですから、これが、「バリアフリーのためのIT」です。これ、一例ですが、鉄道各駅のエレベーターやエスカレータの設置状況をデータベース化しておく。障害者が出かける時、コンピュータに最寄駅と目的地を話しかけると、音声認識したうえで、エレベーターがあつて移動に便利な駅を経由するルートを教えてくれる。こんなイメージです。一、二駅遠回りでも、エレベーター完備の駅を使つたほうが結果として早いことはよくあるんですよ。「ITのためのバリアフリー」のほうは、情報機器を誰にでもわかりやすく、使いやすいものにするための研究ですね。

単に「障害」というと、自分のこととして考えられない方も多くいらっしゃると思います。けれども僕は、障害者問題は対岸の火事ではなくて、川下の火事だと考えます。というのは、年をとれば皆さん障害者になります。程度の差はあれ、視覚、聴覚などや運動機能に障害が出てきます。自分たちが将来どうなるかについては、最低限のイメージーションを持つて欲しい。でないと、あとで困ります。

僕は三十年後の日本の姿を危惧してしまつてね。三十年後は、行政にお金がない、老人や障害者を支えるインフラがない、若い人的パワーもない「三無時代」になる可能性がある。だからIT

いたそれらの人々が、連携・融合していくための方法論、あるいは共通言語とでも言いますか、それがつまりは対人援助学という新しい学問なのですが、その構築も大変重要な仕事だと思っています。いま所長を務めています。本学の人間科学研究所では、これを大切な研究テーマとして努力しています。

さて、樋口先生のご研究のキャッチフレーズは、「ITのためのバリアフリーと、バリアフリーのためのIT」だそうですが、どのような経緯でこれに辿り着かれたのですか？

「音声合成」から「情報バリアフリー」へ

樋口 僕は元々は、コンピュータによる音声合成に取り組んでいました。三歳の時からバイオリンを弾いていますが、メンデルスゾーンのコンチェルトが弾けるかとなると疑問符がつく。僕はある時点から技量の限界を感じて、これを機械に任せようと考えました。しかし大学にはそのもののズバリの研究室はなくて、それに一番近かったのが人間の声を合成する研究室だったんです。大学院を経て、当時のKDD（国際電信電話株式会社）、今のKDDIですが、そこへ入つてもずっとそれに取り組んで、初めてパソコンに言葉を喋らせることができたのが、二十年前くらい前でした。今では当たり前ですが、その技術の先鞭をつ

けたことは確かです。次に、同じコンピュータの声でも、それを人間がどう感じるか、極端に言えばその声はどういうパーソナリティを想起させるか、そこまで含めて評価すべきだと思つて、その手法を提案しました。実はその手法は、今でも合成音の世界での基本的な評価指針なんです。こういう私が「障害」とか、「バリアフリー」を意識した研究をするようになったきっかけは、海外での経験にありました。一時期、仕事で頻繁に海外に出かけていたのですが、あちらでは仮に自動ドアがなくても、全然困りません。なぜかという、当然のごとく周りの人がドアを開けてくれるからです。

望月 そうですよ。実は私も、松葉杖をつきながら外国へ行ったことがあるのですが、エレベーターに乗ろうとしたら皆さんがサッとどいてくれて、びつくりしました。これは日本とは違うと。

樋口 そうでしょう。僕はそれで改めて、「日本の障害者や高齢者のおかれた状況を見直す必要があるんじゃないか。自分にできることは何だろう」と考えました。障害者や、身体の機能の衰えてくる高齢者が日頃どういうことに困っているか、それはどうしたら改善されるのかを、社会に對してもっと語り、提案していきたい。健常者が海外の人のようにスマートにサポートしてくれたら有難いというのは、それはそれで一つの理想なんだけれども、まずは自分の得意なこと、社会に二石を投じてみよう。僕は障害者であり、かつ情報通信技術についてもしっかり議論ができ

などの便利な技術を味方につけて、各人が自分で行えることを増やしておく必要があるのではないでしょうか。

今、高齢の両親と一緒に暮らしています。インターネットを使わない両親は、何かを調べるとなると大変です。いちいち電話をかけて聞かねばならず、しかもなかなか繋がらない。受付時間を確認しないまま出かけると、無駄足になることもある。こういうことが、暮らしの中のバリアになってしまふ。やはり、現代人にITは不可欠です。そのためには誰にでも使えるように工夫をしなければ。

それには、ものづくりを担う人々が「三無時代」を見越し、ユーザーにはどんな人がいて、それぞれがどういう不便を感じているのかに敏感でないければいけません。いまよく言われるユニバーサルデザインを実現するためには何が必要かに思いを馳せられる人材が必要です。実は、僕が大学の教員になったのは、三十年後の社会をよりよくできるような若者を育てたいと思ったからなんです。

便利な道具で 生活上の選択肢を増やす

望月 便利な道具やシステムで更なるバリアフリーをというのは、もつともなことだと思います。私たちの分野でも、発想の転換がありまして、以前は、食事とか排泄などの生活に不可欠なことは、できるだけ自分でできるように練習するのがよいと思われていましたが、最近では、生きていく上で誰でも必ずするようなことは、逆に援助を求めればいいのだという考えが出てきました。むしろ、その人にしかできないことや、その人が本当にやりたいことのほうに時間とエネルギーを

振り向けたほうがいいと。いまはパソコンの入力・出力方法も、いろいろな障害にあわせていろいろ開発されていますから、例えば文学作品を書いたり、作曲したりということも、意欲があればいくらでもできるので。

樋口 人間としての尊厳のほうを大切に、ということですね。

望月 そうです。「私は小説書くのに忙しいから、ご飯を食べさせてね」という依頼は、大いにあっていいんです。

ここで、ある論文を思い出したのですが、人による援助と機械による援助があるとき、どんな場面どちらが選ばれるかという研究だったと思います。車椅子のユーザーで、手も動かせない人が、一般的な家庭の中で電化製品を使う際にどうするかという設定で。

結果はなかなか複雑でしたが、大雑把に言えば、どちらでも選べる状態の時に最も遠慮なく人に頼めるということでした（破多野ら、2005）。僕たちは援助者として、余計なお世話ではなく、かつ足りなくもない手助けとはどんなものかという心も砕いています。それでもやっぱり、ここは人による援助じゃないほうがいいという場面もあります。要するに、選択肢があつて、援助を受ける人の自己決定権が担保されることが必要なんです。

従来、スムーズに言葉を発せない知的障害の人と付き合うとき、うっかりすると、「あなたのことは僕のほうがよくわかっているよ」と言わんばかりのケースもありましたが、それでは彼らの自

己決定権が守られない。彼らが自分の意思を、他人による翻訳をはさまずに直接表現できるように機械があると一番いい。自分のオーダーシップ、著作権を守れるようなものが。

ところで、先生が先程おっしゃった、「三無時代」の到来に備えて、高齢になった自分をイメージしておくというお話ですが、日本人は欧米人と比べて、障害者や老人に対して無関心とか、冷たいというか、まあそんな現実がありますよね。ですからITを便利に使って備えるのは、日本社会のこういう現実を補完するという意味もありますね。人の意識も変わっていくべきなんです。私、ITの進歩を歓迎しつつも、何だか今、逆に冷たいITがどんどんできているような気も一方ではするんですが。

樋口 いや、先程のお話にあつたように選択肢の拡大としてとらえればいいんじゃないかと。人間対人間のほうが、効率もいいし、喜びも大きいのは確かです。人に頼める時には頼んで、ついでに世間話をして楽しむ。そうでないときには、機械なり情報機器なりを使って、できるだけのことを自分でする。

ITもね、現状のITをイメージしたらいいんです。三十年後には、もう現在のコンピュータのような顔はしてないと思います。人間に近いヒューマノイドロボットがもっと身近になる可能性もあります。それを夢としながら、じゃあ高齢者とか障害者、特に知的障害の人が使いやすいように、こういうヒューマンフレンドリーなインターフェイスを考えるとということなんです。

樋口



宜男



望月 昭 (もちづき あきら)

略歴

1950年生まれ。1979年慶應義塾大学大学院社会学研究科博士課程単位取得満期退学。博士(心理学・慶應義塾大学)。慶應義塾大学文学部助手、愛知県心身障害者コロニー発達障害研究能力開発部主任研究員を経て、1998年本学文学部教授。2001年から大学院応用人間科学研究科教授を兼任。2004年から本学人間科学研究所所長、現在に至る。

専門分野

応用行動分析学・対人援助学

主な著作

- ◎『援助の心理学』(編著)
朝倉書店、2007年
- ◎『応用行動分析学入門』(共著)
*コミュニケーションを教える。とは?
学苑社、1997年
- ◎『障害』と行動分析学―「医学モデル」でも「社会モデル」でもなく
立命館人間科学研究第2号、2001年
- ◎行動的QOL―「行動的健康」へのプロアクティブな援助
行動医学研究第6号、2001年
- ◎『人的介助と機器介助の比較：介助方法の自己選択が人的介助の評価に与える影響』
(破田野・星野・八木と連名)
ヒューマンインタフェース学会論文誌、2005年

おばあちゃんのパソコン入門

樋口 僕は学生の研究テーマの一つとして、「おばあちゃんのパソコン入門」というのを設定しています。おばあさんがパソコンを使うとき、いろんなことに困ることがわかりました。専門用語も、操作も。そして、最大のメンタルバリアが何かというと、実は、今のパソコンには困ったときのオフスイッチがない、それなんです。もともと人に優しいものを考える余地は、いくらでもあるんです。

望月 うちのゼミでも実は、おばあさんにコンピュータを教えることをしています。僕らは、まず課題分析をします。教える過程をいくつかの工程に分けるんです。全介助、部分介助、モデル提示、言葉による指示だけ、そして、最後は何も言わない。理科系の皆さんにはちょっと考えにくいかもしれませんが、人による援助といったものも、かなり系統的に指標化・数値化できるんです。

樋口 そうなんですか。援助行動には再現性がないので、エンジニアリングの世界では扱いにくい

と思っていたのですが、体系化できるのであれば面白いですね。

望月 僕はかつて実験心理学で、被験者が一人で試行錯誤しながら何かをできるようにしていく時間を測っていました。すると「学習曲線」と呼ばれるグラフが書けます。でも現実には、まったくの一人だけで学ぶ状況はあまりない。いまは、人による援助を数値化する指標が一通りできまして、まあ、ことの性質上、他の科学に比肩するだけの客観性をもたせるのが難しいことは僕もわかっているのですが、それでどの程度の援助をすれば、このくらいのコンピュータ操作ができるおばあさんは何%に達するといったデータも得られるようになりました。どこまでの程度の援助をするのが適当かを見極められるようになってきたんです。

特にコンピュータなんてものは、たいいてい人に習うじゃないですか。いま、「知っているお兄さんと呼びましょう」というところから始まる高齢者用のマニュアルを作ろうと思っています。僕は正直なところ、精神的セーフティネットの面に不安があり、しかも競争色が強くなりそうな「三

無社会」をITで補うというのは、まだちょっと怖い。逆に、ITの普及は、「人から適切な援助をもらえれば、誰にでも使えて便利なんだよ」ということを社会にアピールする良い機会になるんじゃないかと思っています。あるいは、ITが新しい人間関係を作るかもしれない。世代間で教えあい、助け合うとか。ぜひそうなって欲しいと思います。もつと言えば、さつき私はここへ来るなり、先生のこの黄色いカー트에乗ってみたいと言いました。が、障害者や高齢者向けに格好良い機械やスマートな情報技術がどんどん開発されれば、それがみんなの関心をひき、彼らに対してフレンドリーな心情を喚起させるということもあるんじゃないかとも思います。援助機器に、人の輪をつないでいく要素をもたせられればいいですね。

樋口 おっしゃる通りですね。孫にパソコンの使い方を書いて、会話が弾むという話も面白い。あま現象を数値化できるといふ話も面白い。あまり現象の再現性にはこだわらずに、近似化、抽象化をすればいいですね。サポートの数値化とは違うんですが、以前、老人クラブにお願いして、日常生活のどんなところに不便を感じるのかアンケートを



樋口 宜男 (ひぐちのりお)

略歴

1954年生まれ。1982年東京大学大学院工学系研究科電気工学専門課程博士課程修了。工学博士(東京大学)。同年、国際電信電話株式会社(現KDDI)に入社、音声合成および音声認識の研究に従事する。1995年個人の立場でバリアフリーライフ技術研究会を設立。2002年立命館大学理工学部教授。2004年情報理工学部教授。現在に至る。

専門分野

情報通信工学・福祉情報工学

主な著作

- ◎「音声言語と韻律 10韻律制御文法の自動獲得」『音声と文法Ⅲ』
音声文法研究会編
くろしお出版、2001年
- ◎『新版音響用語辞典』日本音響学会編
コロナ社、2003年
- ◎「福祉社会とIT技術」
日本ロボット学会誌 Vol.21
No.4、2003年
- ◎N.Higuchi: "Barrier-Free for IT and IT for Barrier-Free," Proc. of Workshop on Universal Design for Information, Communication and Broadcasting Technologies, pp.179-184(2003-6).

とったことがあります。「駅の階段を上れますか?」という項目を入れたら、ある専門家に、「階段って、二十段ですか、それとも五十段?」ときかれてしまつて……。技術系の人間って、往々にしてこういう発想をしてしまいますが、ここで段数があまり問題ではないことは、僕にもわかります。このくらいの感覚でいいんですね。いいお話を伺いましたので、もう少し勉強させてもらつて、僕も、より実際に近いところで研究したいと思っています。

望月 私のいる、本学の人間科学研究所でもそれに似た研究プロジェクトがありますよ。車椅子の人が利用する建物に、スロープをつけた。その効果は実際の生活面でどうであるか。車椅子での外出回数がどのくらい増えたか。それから、公共施設をひとつずつ回って、床の傾斜が車椅子で踏ん張れる程度の範囲におさまっているかを測ったチームもあります(竹澤ら、立命館人間科学研究第3号、2002)。これも、テクノロジーに関連する社会調査の例です。

私は当事者の生の声を聞けるところにいます。樋口先生がご自身で実感しておられる不便さはもちろん、違う形での不都合を抱えている人もたくさんいるので、ご一緒すると、お互いにノウハウを提供しあえる部分が大きいのではないかと思っていますね。

望月 目的に行き着くための方法・手段を複数用意して、当事者がそれを自分で選び、決められるように環境整備をするのが、これからのバリアフリーを考える上で重要なことですね。我々の研究は、二見すると形が全然違うから、違うことをやっているように見えてしまうけれども、やりたいことの本質は同じなんですよね。人的援助、情報技術的援助と、方法は違うけれども、理科系の樋口先生に、物理的な細かい単位じゃなくて、車椅子での外出回数のような、行動に関する目に見える指標が重要なんだとご理解いただくこともでき、安心しましたし。こうやって共通点を見出せましたよね。

人生は、まず楽しむことが基本だと思います。

援助を受けながら楽しむのも、楽しさを提供する側に援助の手がついているのも、どちらもOK。「無理にひとり頑張りなくてもいい」。この対人援助学の基本が世の中に理解されて、行動の選択肢が増えていけば、誰もが人生の幸せを感じられると思います。これまで主に障害者や高齢者について話をしてきましたが、健常者だって同じです。たった一人で何かをするなんて、この世の中ではあまり考えられない。誰でも周囲の人との協同のなかで、力を発揮するんですから。求められた最低限のことをスマートにサポートする。これが一番正しくて、すがすがしいと思うんですよ。

樋口 そうですね。障害者だ、健常者だといいますが、健常者といわれる人々の中でも能力のばらつきは大いにあるわけですから。マラソンの選手より走るが遅いからって、引け目を感じる人は誰もいないでしょう。要は生物としてのヒトのバリエーションということだね。得意なことを伸ばし、足りない部分は補う。シンブルにこう考えればいいんです。

ぜひまたお話しさせてください。どうもありがとうございました。

スマートに助け合つて 人生を楽しもう

校友会ネットワーク

本年5月下旬～9月上旬に行われた各団体の行事です(判明分)

都道府県校友会ほか

- 6/16 滋賀県校友会「高島市の集い」
(38名・今津サンブリッジホテル)
- 6/16 三重県校友会総会
(70名・京都日帰りバスツアー)
- 6/23 熊本県校友会
(90名・熊本全日空ホテル ニュースカイ2階「玉樹」)
- 6/23 新潟県校友会総会
(55名・万代シルバーホテル)
- 7/1 神奈川県校友会総会
(60名・崎陽軒本店)
- 7/6 大阪校友会年次大会
(800名・スイスホテル南海大阪)
- 7/7 関東新校友歓迎会
(150名・有明パナソニックセンター)
- 7/7 愛媛県校友会総会
(50名・いよてつ会館5階クリスタルホール)
- 7/8 群馬県校友会10周年記念総会
(60名・ホテルメトロポリタン高崎)
- 7/8 岩手県校友会総会(12名・ホテル・エース盛岡)
- 7/14 滋賀県校友会総会(70名・ホテルボストンプラザ草津)
- 7/21 岐阜県校友会(124名・ホテルグランヴェール岐山)
- 7/21 秋田県校友会総会(29名・ホテルメトロポリタン秋田)
- 7/29 徳島県校友会総会(50名・阿波観光ホテル)
- 8/4 香川県校友会総会(130名・喜代美山荘「花樹海」)



滋賀県校友会「高島市の集い」



新潟県校友会総会



関東新校友歓迎会



岩手県校友会総会



岐阜県校友会

- 8/4 沖縄県校友会総会(37名・ホテルロイヤルオリオン)
- 8/11 高知県校友会総会(60名・城西館)
- 9/1 広島県校友会設立55周年記念総会
(200名・リーガロイヤルホテル広島)
- 9/2 岡山県校友会総会(150名・ピュアリティまきび)

地域校友会

- 5/25 タイ王国校友会
(11名・日本料理店「さんや」)
- 6/16 北京校友会
(17名・北京市「花家怡園」)
- 6/16 長野県校友会飯伊地区会総会
(26名・殿岡温泉 湯～眠)
- 6/23 広島県東広島地区校友会
総会
(25名・賀茂鶴酒造「仏蘭西屋」)
- 7/7 山口周南地区校友会総会
(60名・ホテルサンルート徳山)
- 7/7 島根県校友会大田市地区会
(20名・いしはら旅館)
- 7/22 静岡県校友会駿府会新校友歓迎ビアパーティ
(16名・クーポール会館)



タイ王国校友会



北京校友会



広島県東広島地区校友会総会

職域校友会

- 6/25 立命京滋観光の会総会(40名・新都ホテル)
- 6/27 立命会
(大阪府教員及びOBの会)
(15名・釣鐘倶楽部)
- 6/29 堺市役所わだつみ会総会
(60名・リーガロイヤル
ホテル堺)
- 6/29 広島県庁校友会総会(25名・広島県民文化センター)
- 7/7・8 八尾市役所立八会総会(35名・き乃ゑ)



立命会(大阪府教員及びOBの会)

Alumni Association Network

*詳しくは校友会ホームページをご覧ください
<http://www.ritsumeai.ac.jp/mng/al/>

- 8/18 立命同窓会 (大阪市高校の会) (18名・天王殿)
- 8/25 立命館学園会計人会総会 (40名・京都ホテルオークラ)

学部・学科校友会

- 6/16 法学部同窓会総会 (250名・京都ホテルオークラ)
- 6/16 文学部校友会設立記念式典 (120名・衣笠キャンパス以学館2号ホール)
- 6/17 立命館大学応化会総会 (60名・京都タワーホテル)
- 6/19 関東建設会総会 (35名・大手町サンケイプラザ)
- 6/29 関東立電会 (16名・日立高輪・和彊館)
- 7/7 機友会京都支部総会 (30名・京都ガーデンパレス)
- 7/7 法学部塩田ゼミOB会総会 (30名・朱雀キャンパス)
- 7/27 滋賀衣笠会 (40名・琵琶湖ホール)



文学部校友会設立記念式典



関東立電会



機友会関東支部総会

- 8/19 機友会関東支部総会 (30名・清澄庭園内大正記念館)
- 9/1 奈良建設会総会 (40名・共済会館やまと)

サークルOB・OG会

- 6/24 体育会馬術部OB・OG会総会 (40名・立命館大学馬術部厩舎)
- 7/10 体育会スキー部OB・OG会 東京支部発足会 (11名・「魚河岸処さより」)
- 8/11 憲法研究会OB会 (20名・洛翠)



体育会スキー部OB・OG会東京支部発足会

その他の会

- 6/23 ウリ同窓会総会 (60名・弥生会館)
- 7/21 清和会総会 (300名・ウエスティン都ホテル京都)
- 7/21 Ritsトレッキングサークル (20名・東天狗岳)
- 8/25 堅太郎79懇親会 (16名・Tawawa二条)
- 8/26 立命数物85会 (11名・大津プリンスホテル)



Ritsトレッキングサークル

京都歴史回廊文化塾 夏期集中講座「しばし京都人」を開催

前号の当コーナーでご案内しました、京都歴史回廊文化塾のオープニングイベント「しばし京都人」が、7/18(水)～20(金)に行われました。

京都歴史回廊文化塾とは、京都歴史回廊協議会(事務局本学)が、社会に広く門戸を開いて開催する体験・滞在型の教育プログラムです。京都の歴史的・文化的財に触れ、アカデミックな講義を聞きながら、しばし京都人の1人となることで知的好奇心を満たそうというもので、今後連続的に開催予定です。

初日の18日には、本学朱雀キャンパスに約380名の参加者が集まり、京都・島原の置屋「輪違屋」の如月太夫による太夫道中を十代目当主高橋利樹氏の解説を交えて鑑賞。続いて、作家・浅田次郎氏による「輪違屋糸里一その舞台」と題した講演に聞き入りしました。

19日・20日には、協議会加盟4大学(花園大学、京都嵯峨芸術大学、佛教大学ならびに本学)のキャンパスを順に回り、専門の教員から京都の歴史や文化に係わる講義を受けるとともに、妙心寺・大覚寺などの特別拝観を行いました。

※「しばし京都人」定期講座については、
 京都歴史回廊協議会ホームページ <http://www.kairou.org/> をご覧ください。



この一点

「浦上天主堂で被爆した石像の顔面部」

制作一九二四年／被爆一九四五年 長さ：約十八cm 幅：約十三cm 厚み：約八cm



立命館総合ミュージアム

この秋の展覧会・催し案内（一般公開分）

◆立命館大学国際平和ミュージアム

特別展「世界報道写真展2007」

10月23日(火)～11月11日(日)

参観料:大人500円／中高生300円／小学生200円（常設展もご覧いただけます）

世界報道写真財団が毎年開催している「世界報道写真コンテスト」の入賞写真が世界を巡回する「世界報道写真展」。立命館大学では、1995年から毎年開催しています。

時に命がけで撮影された報道写真を間近にご覧いただき、世界の現実について実感し、平和について考える機会としてください。

記念講演会 10月12日(金) 14:40～16:10

- ◎講師: 江川紹子氏 (ジャーナリスト)
- ◎演題: 「報道の真実をどう読み解くか？」
- ◎事前申込不要・無料

「飯塚国雄絵画展—被爆した父への応え—」

11月15日(木)～12月15日(土)

ニューヨークを拠点に活躍する飯塚国雄は、1971年初めて訪れた長崎で、父親が被爆者であることを知りました。それを機に制作した「炎・ナガサキ」は、1985年、50周年を迎えた国連内で特別展示され、世界に衝撃を与えました。その後も飯塚は内戦・虐殺・難民等をテーマにした作品を発表し続けています。

今回の特別展は、戦争の記憶を風化させることなく、鎮魂と和解、そして共存を呼び戻すことを願って開催します。

- ◎開 館: 9時30分～16時30分（入館は16時まで）
- ◎休館日: 月曜日（祝日の場合はその翌日）
- ◎入館料: 大人400円／中高生300円／小学生200円
（「世界報道写真展」は別途）
- ◎Tel.075-465-8151 ◎http://www.ritsumeai.ac.jp/mng/er/wp-museum/

◆京都府立堂本印象美術館

特別企画展「KYOTOきぬがさ絵描き村—印象・平八郎・神泉・竹喬・華楊—」

10月19日(金)～12月9日(日)

大正末から昭和にかけて、衣笠周辺には多くの画家が住み、制作活動を行っていたことから、「絵描き村」と呼ばれていました。本展では、堂本印象のほか、福田平八郎、徳岡神泉、小野竹喬、山口華楊といった衣笠ゆかりの文化勲章受章作家たちの作品を一堂に展示することで、京都画壇の精華を紹介します。

- ◎開 館: 9時30分～17時（入館16時30分まで）
- ◎休館日: 月曜日
- ◎入館料: 一般500円／高大生400円／小中生200円
- ◎Tel.075-463-0007 ◎http://www2.ocn.ne.jp/~domoto/

石

像から剥ぎ取られた顔面。まなざしで天を示しているようにも、悲しみに耐えているようにも、また、少しとぼけて微笑んでいるようにも見える。

石像は、一九一四年に完成した長崎・浦上天主堂の天使像の一つであった。浦上地区では、十六世紀後半からキリシタン布教が行われ、信者は江戸時代の禁教と迫害に耐えながら、信仰を守ってきた。近代になり、キリスト教の禁制が解かれた後、十五年の歳月をかけて信徒の悲願であった天主堂が建設された。

完成当時、東洋一と言われた天主堂の外側には八十四体の天使、三十三体の獅子、十四体の聖人の石像が飾られ、異色な趣きがあったという。これらの石像は、天草の地蔵造りの手による。制作のために各地から地蔵造りが呼び寄せられたが、彫りなれない天使や聖人の面立ちに、さじを投げてしまった。天草の地蔵造りだけが刻みあげたという。

一九四五年八月九日、長崎に原子爆弾が投下された。爆心から北東約五百メートルの距離にあった天主堂とともに、この像も無残に砕かれた。死者約七万四千人、負傷者約七万五千人、今日もまだ後遺症に苦しむ人々があり、残酷な体験や家族を失った悲しみは消えることはない。

（学芸員・兼清順子）

*当石像は、当分の間、常設展示室にてご覧いただけます。



立命館大学
国際平和ミュージアム

特別展・常設展

校友招待券

有効期間

2007年12月26日(水)まで

（校友1名様無料でご入館いただけます）
校友会報「りつめい」No.230

難関国家試験結果

第二回新司法試験に六十二名が合格 — 合格者数全国七位 —

このたび、第二回新司法試験において、六十二名（全国七位、私大五位、関西私大二位）が合格しました。

この結果につきまして、立命館大学大学院法務研究科研究科長 市川正人からご報告いたします。校友の方々には、今後ともご指導くださいますよう、何卒よろしくお願い申し上げます。

*

立命館大学法科大学院は、「地球市民法曹」の養成を理念とし、「理論と実務」の架橋を意識した法学教育に教員、学生とも真摯に取り組んできました。私たちは、新しい法曹養成制度の理念に忠実な教育を行ってきたと自負しております。

そして、このたび第二回の新司法試験においては、全国七位の六十二名の修了者が合格しました。合格された皆さんは、これまでの努力が報われたわけであり、心よりお祝い申し上げます。今後は「地球市民法曹」として法曹界などにおいて活躍されることを祈念しております。

立命館大学法科大学院は、第一回新司法試験の後、直ちに結果を分析し、その成果を法科大学院での教育内容・方法に反映させ、より一層丁寧で行き届いた教育・指導を行うよう努めてきました。

授業においてレポートや中間テストに対する添削指導がなされ、全教員がオフィスアワーで学生の質問に答えるだけでなく、多くの教員が学生の学習会に参加して指導にあたりました。クラス担任が全ての最終学年生に面談して助言も行いました。さらに、新司法試験合格者が司法修習開始までの間、後輩の指導にあたってくれたのももちろん、立命館大学校友を中心とした弁護士の方による自主ゼミも多数開かれました。こうした取

り組みが全体として、学生・修了生の意欲と学力を高め、学生・修了生の努力と相まって、今回の結果につながったのだと思います。

もちろん、新司法試験は、法科大学院での教育の成果を試すものであり、小手先の「受験対策」が通用するものではありません。立命館大学法科大学院では、今年度より更に教育内容・方法の改善を進めており、その成果が来年度の新司法試験において表れるものと期待しています。

立命館大学法科大学院は、今回の新司法試験の結果に安住することなく、来年度の第三回新司法試験に向けてさまざまな努力を続ける所存です。それはまた、新しい法曹養成制度の理念に忠実な教育をより推進し、名実ともに「法曹養成に特化したプロフェッショナル・スクール」と言えることを目指すということでもあります。

立命館大学校友、とりわけ校友法曹の皆様の変わらぬご支援をお願いいたします。

二〇〇七年九月

立命館大学大学院法務研究科（法科大学院）
研究科長

市川 正人

新司法試験に関するお問い合わせ先
プロフェッショナルスクール事務局
TEL 075-813-8272

順位	法科大学院名	人数
1位	東京大学	178名
2位	慶応義塾大学	173名
3位	中央大学	153名
4位	京都大学	135名
5位	早稲田大学	115名
6位	明治大学	80名
7位	立命館大学	62名
8位	一橋大学	61名
9位	同志社大学	57名
10位	北海道大学	48名

教育・研究の動き

政策科学部・政策科学研究科 宇治の「協働ラボウジ」において 「成年後見無料相談会」 「NPO相談会」を実施中

政策科学研究科の「ローカル・ガバナンスの政策実践研究」プログラムが、昨年度、文部科学省「魅力ある大学院教育」イニシアティブ（大学院GP）に採択されました。政策科学部・政策科学研究科は、このプログラムの一環として、二〇〇七年三月に宇治市・宇治橋西詰のビル内に「協働ラボウジ」を設置しました。地域に入り、実社会の課題を解決するための研究をするものです。

この「協働ラボウジ」において、認知症の高齢者や障害者の日常生活の心配事に行政書士が相談にのる「成年後見無料相談会」が月一回、きょうとNPOセンターによる「NPO相談会」が月二、三回実施されています。

「成年後見無料相談会」は、成年後見制度の周知と利用促進を目的に、京都府成年後見支援センターと京都府行政書士会第七支部が六月から始めました。介護サービスや施設入所の契約、家賃収入や年金の管理、保険金受け取り等の相談を当事者や家族から受けます。「NPO相談会」は、きょうとNPOセンターが広く一般市民向けに行い、NPOの支援・啓発を行うものです。

政策科学部・政策科学研究科は、成年後見支援センター、行政書士会第七支部、きょうとNPOセンターの各々と相談内容を研究資料として活用できる学術交流協定を結んでおり、大学院学生にとっては貴重な教育・研究の場となっています。

お問い合わせは、「協働ラボウジ」
TEL 075-813-8272 までお願いします。

■金岡克弥理工学部講師

人間の脚パワーを増幅させる ロボットの新試作機を開発

金岡克弥講師（理工学部ロボティクス学科）は、松下電器の社内ベンチャーであるアクティブリンク（株）と共同で、「パワーペダル」を開発しました。金岡講師の専門分野はロボット制御工学。ロボットならではの強大なパワーを発揮しつつ、微細な力加減のコントロールを可能にする独自のロボット制御手法を導入し、人間が使う「道具」の高度化に成功。「人間の器用なスキル・臨機応変な判断能力と、機械の強大なパワーの相乗効果」を実現させています。

「パワーペダル」は、金岡講師が手がけるマンマシナジーエフエクタ（人間機械相乗効果器）シリーズの一つで、「パワーフィンガー（指のパワー増幅）」、「パワーエフエクタ（腕のパワー増幅）」に続く三作目。

「パワーエフエクタ」が、人間の腕のパワーを最大二千倍程度までに増幅する装置なのに対し、「パワーペダル」は、人間の脚のパワーを七倍（最大四十倍以上）に増幅する装置です。自転車のサドルのようなすに腰掛け、ペダルを踏んで歩く動作をすると、機械の大きなパワーを利用して歩行することが可能となります。弱い脚力でも実際に自分で歩く感覚で動かすことが出来るため、高齢者や障害者の歩行補助用として商品化を目指しています。

また、近い将来には、災害救助活動や工事現場などでの活躍も期待されています。



マンマシナジーエフエクタ公式サイト
<http://www.rtsumei.ac.jp/~kanaoka/nmse-j.html>

■田中弘美情報理工学部教授

遠隔多地点間で同時に 触感が得られるシステムを開発

田中弘美教授（情報理工学部）らは、遠隔多地点で同時に触感が得られるハプティック（触覚）コミュニケーションシステムの実用化にめどをつけました。ハプティックコミュニケーションとは、コンピュータ上の仮想空間にあるモノを見るだけでなく、「触れる」ことができる手法を指します。視覚情報や聴覚情報だけでなく、手触りなどの触覚情報を得ることで、重さや硬さが分かるため、手術のシミュレーションやモノづくりの試作などでより臨場感が増し、実用化が期待されています。

田中教授らは、滋賀医科大学の協力で適応的ボリウムモデルと呼ぶ肝臓モデルを構築。注射の訓練に使う市販の触覚デバイスで触感の共有を実現しました。

磁気共鳴断層画像診断（MR）装置で撮影した肝臓の写真をベースにし、これに硬さや弾性、粘性などの物性をパラメーターとして組み込むことで、接触に対してパソコンのモニターで変形を視認し、触覚デバイスで変形に伴う触感を再現します。手術や手術訓練と同様に鉗子を使つて肝臓を引つ張つたりする感覚を実感できます。

今後は胆のうなど他の内臓モデルを作成して手術訓練など医療での商品化を目指すほか、アミューズメントや職人の技の継承などでの幅広い応用が期待されています。



一貫教育の充実

平安女学院・岩田学園・奈良育英学園に 「立命館コース」等を設置

学校法人立命館は、このたび、学校法人平安女学院（京都府京都市）、学校法人岩田学園（大分県大分市）及び学校法人奈良育英学園（奈良県奈良市）と教育・研究に関する交流協力協定を締結し、あわせて各校に「立命館コース」・学校法人岩田学園には「APU・立命館大学進学コース」を開設することについて合意しました。

この取り組みは、学校法人立命館と各学校法人とのコラボレーションによって、社会に有用な人材を一貫教育で育成するという新しい挑戦です。「立命館コース」の卒業生は、基本的に立命館大学またはAPUに進学することとなります。

各校における「立命館コース」の募集は二〇〇八年度入試より行います。

立命館中学校・高等学校に 新コースを設置

このたび、①立命館高等学校にメディカルサイエンスコース（以下、MSC）、②立命館中学校にアドバンストコース（以下、ADC）を二〇〇八年度より設置することとなりました。

立命館高等学校は、二〇〇二年度から文部科学省のスーパーサイエンスハイスクールの指定を受けています。立命館中学校も、二〇〇三・二〇〇四年度に同省の「理科大好きスクール」、二〇〇五年度からは「理数大好きスクール」の指定を受け、様々な取り組みを行っています。

これらの取り組みを踏まえ、MSCでは医歯薬系大学への進学を目指す新たな教育を行います。単なる受験コースではなく、人間教育を重視します。ADCではMSCでの学習につなげる六年一貫教育を目指すとともに、中学生時代に幅広く高いレベルの学習を行い、MSCだけでなく、法曹界・経済界等でも活躍する人材を輩出することも目指します。



「えんじのRは立命館!」応援よろしくお願ひします コミュニケーションマーク誕生

このたび、立命館学園の校友、在校生、受験生や父母の皆様、教職員等、すべての学園関係者の「心をひとつ」にするために、「コミュニケーションマーク」を制定しました。

立命館学園の教育・研究成果やその過程を広く社会に理解いただくためには、より多くの方々と多面的な接点を持つことが必要です。今後、立命館はこのマークを、社会とのコミュニケーション活動を強化するものとして活用していきます。

マークのコンセプトは、「確かな学力の上に、豊かな個性を花開かせ、正義と倫理を持った地球市民として活躍できる人間」という立命館憲章で述べられている学生像。この学生像を、立命館の頭文字「R」一文字のゴシックで表現することで、力強さ、信頼感を醸し出すことを目指しました。

デザイナーには、アートディレクターの秋山具義氏を起用。デザインにあたっては、Tシャツやトートバック等にプリントされた際に受験生や在校生に共感を持って受け入れられることを意識しました。洗練されたイメージを表現するために、安定した美感を与えるといわれる黄金比（縦8対横5）にこだわっています。

色は、Ritsマークと同様に、応援歌にも使用されているえんじ色。この「R」マークは、Ritsマークと併用して使用することになります。

今後は、スポーツの応援グッズ、Tシャツ、文具、広報物等、様々なツールにおいて使用していくことを予定しています。

「えんじのRといえば立命館!」。このイメージが社会に定着し、この新しいマークとともに母校が成長していきますよう、校友の皆様にも様々な場面で活用いただきたくお願ひします。

刺激づくめのワールドカップ。 日本代表での経験を秋季リーグでの活躍に!

皆さんはアメフトにワールドカップがあることを、そしてこの夏、日本代表が大会3連覇をかけて戦ったことをご存知だろうか。第3回アメリカンフットボールワールドカップは神奈川県川崎市で7月7日から1週間にわたって開催された。プロの選手の中にまじってただ2人、学生から代表に選ばれた前田直輝選手(経済学部4回生)。準優勝に終わった悔しさをかみ締めつつも、日の丸を背負った代表での経験は今後に向けて大きな収穫だったようだ。日本代表として奮闘した前田選手にお話を伺った。

ワールドカップでの準優勝おめでとうございます。日本代表に選出されてからの日々や、アメリカをはじめとする強豪国と対戦して前田選手が感じたことを教えてください。

代表チームが3連覇を目指して取り組んでいたもので、準優勝という結果は正直残念です。しかし、私にとっては得るものが非常に多くあった大会でした。まず、3月から始まった日本代表選出の合宿での経験は貴重でした。140人いる日本代表候補選手をふるいにかけて、45人を選ぶという厳しい合宿でしたが、大学の練習と併せて、更にレベルの高い環境で競争ができたことが大きな力になりました。代表の練習では、やはり選手全員が日本のトップのプレイヤーで、それぞれが所属するチームの代表なんだというプライドがみな



ぎっていたので、どんな練習でも緊張感があり、ミスができない空気が流れていました。また、同じく学生から代表選出されていた戸倉君(*)とは同い年ということもありライバル心が燃えました。

(*戸倉和哉選手 法政大学)

日本代表に選出されてからもほぼ毎週末練習があったのですが、代表にはパンサーズのOBの方が13人もいたので、チームに溶け込みやすかったです。今後は合宿を通して経験したことを、パンサーズにも還元し、チームのさらなる躍進に貢献したいと思います。

ワールドカップを振り返ると、最初はとても緊張しました。普段の試合とは比べものにならないほど多くの観客がいましたし、対戦相手も体格の良い選手が揃っていたので、強いプレッシャーを感じました。2戦目のスウェーデン戦ではタッチダウンを上げることができ、試合を経るごとに徐々に周囲を見てプレーができるようになったと思います。決勝戦で対戦したアメリカは、日本代表として何としても勝ちたい相手でした。この試合の為に3月から合宿を行って、チームを作ってきたと言っても過言ではありません。決勝戦の前半はリードして折り返し、悪い流れではありませんでした。しかし、アメリカの選手は日本代表のプレーにアジャスト(適応)する力がとてもありました。前半すんなり通ったプレーが、後半になると防がれるなど、本場の底力を見せつけ



**RITS
ONE**

輝いています、
ときの人

N a o k i M a e d a



前田 直輝さん

経済学部4回生

アメリカンフットボール部 副将

られました。結果として20-23と僅差で優勝を逃したことは悔しいですが、今では次につながる試合だったと思っています。

秋季に向けた目標をお願いします。

現在の目標は、秋の関西学生リーグで昨年度の関西王者、関西学院大学に勝つこと、そして日本一になることです。そのためにプレーや精神的な面でチームを支えられるような選手となり、チームへ貢献したいです。

今回の代表選出、世界大会を経て、アメフトはとても奥が深いスポーツだと再認識しました。パンサーズは日本一を目指し、活動しているチームです。もしまだ見たことがなければ、ぜひ一度競技場へ足を運んで、リアルな音・雰囲気に触れ、その空気を肌で感じてほしいです。皆さん、是非試合会場に足を運んでみてください。

取材・文:辻 健太郎(学生広報スタッフ/経済4)

SPORTS & EVENTS

S P O R T S

スポーツ

問い合わせ先: スポーツ強化センター
075-465-7863

アーチェリー部

全日本学生アーチェリー王座決定戦
(6月29日～7月1日 ヤマハリゾートつま恋)

▶ 男子 3位

アメリカンフットボール部

第3回アメリカンフットボールワールド
カップ2007川崎大会
(7月7日～15日 等々力陸上競技場他)

▶ 準優勝 日本代表チーム
(前田直輝 経済4)

カヌー部

関西学生カヌー選手権大会
(8月9日～12日 琵琶湖漕艇場)

▶ 男子・女子 総合優勝

全日本学生カヌー選手権大会
(8月31日～9月2日 木場漕カヌー競技場)

▶ 男子総合優勝・女子総合3位
▶ 男子1000mカヤックシングル優勝
渡邊大規(経営1)
▶ 10000mカヤックペア優勝
天野恵一(産社3)・渡邊大規(経営1)
▶ 500m×4カナディアンリレー優勝
永井真哉(理工4)・小梶孝行(経済3)
森迫直樹(経営3)・太田智也(経営1)

剣道部

全日本女子学生剣道選手権大会
(7月7日、8日 大阪府立体育館)

▶ 女子 個人
3位(創部初)
坂本恵梨子(法3)

3回戦以降は、福岡
教育大学、筑波大学
の強豪選手を相手に
これまでで最高の試
合運びを展開。延長に



もつれ込むことも無く、準決勝まで順調にコマを進
めた。準決勝では、昨年の覇者、筑波大学の佐久間
選手と厳しい打ち合いを見せる白熱した試合の末、
後半に面を取られ惜しくも敗れたが、剣道部初となる
全国大会個人3位入賞を果たした。

ゴルフ部

日本女子学生選手権
(8月22日～24日 兵庫県北六甲カントリークラブ)

▶ 優勝 川満陽香理(経済2)
▶ 3位 園田絵里子(文1)

射撃部

全日本学生選抜ライフル射撃選手権
(6月30日～7月1日 埼玉県長瀬総合射撃場)

▶ 男子団体総合 2位
▶ 男子ライフル3姿勢団体 2位

相撲部

西日本学生個人体重別選手権
(7月1日 堺市大浜相撲場)

▶ 75kg級
優勝 多母髪泰行(産社3)
▶ 85kg級
優勝 島子隆司(産社1)

重量挙げ部

西日本学生ウェイトリフティング選手権大会
(7月6日～8日 羽曳野コロセアム)

▶ 女子48kg級
優勝 角田祥子(法4)
▶ 女子53kg級
優勝 鎰谷綾子(産社1)
▶ 女子58kg級
優勝 谷口亜純(産社2)
▶ 女子69kg級
優勝 大杉星子(法2)

卓球部

中国オープン卓球選手権大会
(日本代表)

(6月28日～30日 中国・南京市)
▶ ベスト8 岡本真由子(産社2)
岡本真由子選手(産社2)、宇土弘恵選手(産社1)
の2名が日本代表として出場した。岡本選手は格上

の世界ランキング37位の台湾代表選手を破り、見
事ベスト8入りを果たした。

全日本大学対 校選手権

(8月2日～5日 尼
崎市記念公園総合
体育館)

▶ 女子 ベスト4



関西学生卓球選手権大会

(6月1日～3日 松下電器体育館他)

▶ 男子ダブルス
優勝 石野倫寛(法3)・加地竜也(産社3)
▶ 男子シングルス
優勝 石野倫寛

軟式野球部

関西学生春季リーグ戦

(6月11日 伊丹スポーツセンター)

▶ リーグ優勝

馬術部

関西学生女子自馬大会

(6月3日 三木ホースランドパーク)

▶ 馬場馬術B
優勝 細川佳代(政策1)

女子バスケットボール部

西日本学生選手権

(5月30日～6月3日 大阪府立体育館他)

▶ 3位 創部初

バドミントン部

関西学生選手権

(6月27日[最終日] 東淀川体育館)

▶ 女子シングルス
優勝 若杉文音(産社3)
▶ 女子ダブルス
優勝 黒田香織(法4)・今井杏莉(国関4)

バレーボール部

西日本大学選手権

(6月21日～23日 兵庫県立総合体育館)

▶ ベスト4

学生のスポーツ&イベント

<http://www.ritsumeai.ac.jp/acd/st/student/info/>

フェンシング部

日本学生王座決定戦
(6月2日～3日 大山崎体育館)

- ▶男子サーブル 3位
- ▶女子エペ 2位

ボート部

全日本軽量級選手権大会
(7月4日～8日 埼玉県戸田ボートコース)

- ▶男子舵手なしクオドルブル
優勝
西本純也(経済4)・濱木一也(産社4)

男子陸上競技部

全日本大学駅伝・
関西学連出場大学選考競技会
(6月23日 西京極総合運動公園)

- ▶優勝
全日本大学駅伝シードで出場

日本学生対校選手権大会
(6月8日～10日 代々木公園陸上競技場)

- ▶400m
3位 内記正裕(経営5)

女子陸上競技部

日本学生対校選手権大会
(6月8日～10日 代々木公園陸上競技場)

- ▶1500m
2位 堀岡宏美(経済1)
3位 小島一恵(経営2)
- ▶10000m
3位 小島一恵

男子陸上ホッケー部

全日本大学王座決定戦
(6月24日 長居球技場)

- ▶準優勝

レスリング部

西日本学生レスリング新人選手権大会
(7月6日、7日 堺市立金岡公園体育館)

- ▶フリースタイル66kg級
優勝 竹本雄飛(経済2)

CULTURE / ART

文化・芸術

問い合わせ先: 学生オフィス
075-465-8141

囲碁研究部

第51回全日本学生本因坊決定戦
(8月9日、10日 神奈川県箱根町 ホテルおかだ)

- ▶優勝 高津昌昭(法2)

応援団チアリーダー部

第17回関西チアリーディング選手権大会
(6月17日 大阪府立体育館)

- ▶大学の部
優勝(創部初)
ジャパンカップ2007チアリーディング日本選手権
大会出場権を獲得



応援団吹奏楽部

「SUMMER
CONCERT
2007」開催!
(7月13日 八幡市文
化センター大ホール)



かるた会

第14回全日本大学かるた選手権大会
(8月4日、5日 大阪市 近江神宮勤学館)

- ▶団体の部
優勝(6年ぶり3度目)
- ▶個人の部 大学代表の部
優勝 高間光平(産社2)

第73回全国かるた競技学生選手権大会
(個人)

(8月25日 東京都江戸川スポーツセンター)

- ▶A級の部 優勝
川崎文義(文1)

第88回全国職域学生かるた大会
(団体)

(8月26日 東京都
江戸川スポーツセ
ンター)

- ▶A級の部 3位



将棋研究会

第3回毎日杯争奪全国大学対抗将棋大会
(8月9日 神奈川県箱根町ホテル南風荘)

- ▶準優勝

平成19年度西日本学生将棋女流名人戦
(8月24日・25日 アビオ大阪)

- ▶優勝 畑香奈美(法1)
- ▶準優勝 杉原茉莉(理工2)

第61回全日本アマチュア将棋名人戦全国大会
(9月1日～3日 東京都チサンホテル)

- ▶3位 古屋皓介(文2)

バントフリング部

第28回世界バントフリング選手権大会
(8月3日～5日 カナダ・ハミルトン)

- ▶チームの部
優勝 立命館大学立命館バトンチーム

◇立命館大学立命館バトンチーム

小城桂馬(06産社卒)・首藤香織(07国関卒)
岩梨弥紗(産社4)・大北 岬(政策3)
渡辺翔史(文2)・湯川 到(産社2)
河野綾子(国関1)・廣田夏季(文1)
田淵福寿(産社1)

「第28回世界バントフリング選手権大会」チー
ムの部で立命館大学立命館バトンチームが2位に
20得点近くの大差をつけて97.75得点で1位に輝
いた。立命館バトンチームは現役バントフリング部
にOBの小城桂馬さんとOGの首藤香織さんらが加
わった混成チーム。出場全12ヶ国の国別総合でも日
本が第1位となった。

平和ミュージアムに長崎で被爆した「天使の首」があるとき、かつて浦上天主堂で見たマリアの首を思い出し、懐かしい気持ちとともに、ゆっくり深みに沈んでいくような、苦しい思いに囚われてしまった。

30年前、所属していた演劇研究所の卒業公演が、田中千禾夫の代表作「マリアの首」と決まった時、この戯曲が大好きだった私は、同期生5人と一緒に長崎に現地取材に行き、初めてマリアの首に会った。美しく優しい、ケロイドのマリア様の首。まさに「百聞は一見に如かず」。詩的に語るはずの魅力的なせりふは、その時から、棘で刺されながら発する苦痛の言葉となってしまった。

戦争や被爆の体験が徐々に忘れられていく現在、その爪痕を保存し風化させないよう努力することは、辛くても、今生きている私たちの使命だ。平和ミュージアムの存在は、立命人の誇りの一つだと、あらためて強く思う。(M.K.)

先週BKCを訪ねた。正門を入ってすぐに廃食用油燃料バスが止っていた。これが各新聞で大きく報道された天プラ油で走るバスだとすぐに判った。メディアセンターでは、前から読みたいと思っていた本が見つかったので借りた。

広いキャンパスには多くの男女学生が往来し、活気に満ち溢れていた。現在、立命館大学とAPU、小・中・高9校で47,000人の学生・生徒・児童が学んでいると聞く。母校の発展を頼もしく感じる。(寛)

「きぬがさ」地域の歴史、文化、環境的資産を保全、継承し、活用しようという「京都歴史回廊」の活動は、今後ますます注目を集めることだろう。地域の住民、大学、企業が主体となり、その取り組みの中で、この地域にある世界遺産、芸術など豊富なコンテンツをどのようにして掘り起こし、どのような形で今後発信していくのか、楽しみである。こうした面となったコミュニティーがいろいろなところで動き出すと、全体としての「京都力」、都市格もぐっとレベルアップすると思う。あとは次代の人材育成。学生たちのめざましい活躍にも期待したい。(山岡祐子)

京都に生まれ育った私ですが、あまり京都の観光名所に行く機会がありませんでした。大学時代は他府県出身の友人の方が京都のことをよく知っていたということも少なくありません。

今「京都」がブームとなり京都学など改めて京都が注目されています。京都に関する本は書店に行くとも迷うほど並んでいます。

せっかく京都に住んでいるのに、これではいけないと反省し、今更ながら京都について学んでみようとして計画をたてているところです。

立命館でも京都歴史回廊文化塾など京都に関する講座が開講されています。機会があれば参加してみたいなあとと思っている今日この頃です。(佳)

校友会・グループインフォメーション

※(職)は職場電話番号

校友会・グループ	日時	会場	問い合わせ先
北摂校友会総会	10/19(金) 18:30	ホテル・アイボリー	湯川正之 (職)06(6844)2001
青森県校友会総会	10/20(土) 15:00	青森グランドホテル	對馬修治 017(738)6119
高槻・島本校友会総会	10/20(土) 18:30	高槻現代劇場	田中英俊 072(695)9360
和歌山県校友会総会	10/22(月) 18:30	タイワロイネットホテル和歌山	山田啓二郎 073(471)4911
体育会合気道部創部45周年記念祝賀会	10/27(土) 18:00	京都弥生会館	山本将人 075(462)2013
全国会計人サミット	10/27(土) 13:00	朱雀キャンパス→京都ホテルオークラ	村山佳也 075(841)6178
建設会京都支部総会	10/27(土) 15:30	京都タワーホテル	内田威男 (職)075(351)6878
ALL立命館デー in TOKYO	11/4(日) 11:00	東京国際フォーラム	校友会事務局 075(813)8216
北九州校友会総会	11/9(金) 18:30	ステーションホテル小倉	初村雅敬 093(882)9240
鳥取県東部校友会総会	11/9(金) 18:30	白兎会館	西垣佳則 (職)0857(30)0555
鹿児島県校友会総会	11/10(土) 14:30	ステーションホテルニューカゴシマ	西元泰光 (職)099(253)1211
村上弘教授を囲む会	11/10(土) 14:30	朱雀キャンパス	武内真一郎 (職)06(6615)0696
学園祭OB会総会	11/10(土) 18:00	京都弥生会館	堀江公夫 075(962)6420
広告研究会OB会親睦会	11/17(土) 16:00	京料理「花斗」	前田 匠 075(864)0605
福岡県校友会総会	11/22(木) 18:00	ソラリア西鉄ホテル	清家邦敏 (職)092(472)2621
大分県校友会総会	11/23(金・祝) 16:00	つるみ荘	佐藤昌彦 097(521)5392
広島県東部校友会総会	11/23(金・祝) 16:00	西山別館	島田 斉 (職)084(922)6361
国際関係学部校友会	11/24(土) 14:00	グランドプリンスホテル新高輪	国際関係学部事務局 075(465)1211
愛知県校友会総会	11/24(土) 17:20	名鉄グランドホテル	加藤智大 (職)FAX:052(937)1250
法学部井戸田会総会	11/24(土) 18:00	京都タワーホテル	市田幸雄 075(313)4735
浜松会新年会	1/19(土) 18:30	浜松名鉄ホテル	船越弘光 053(437)2073
北海道校友会総会	1/26(土) 16:30	札幌パークホテル	中川 均 (職)011(251)3373

校友消息(判明分)

叙勲 2007年度 春

□旭日小優章

宗石教道氏('57法・'59経済)

就任

家元丈夫氏('52法)

京都府議会議長

柴田秀夫氏('56法)

協同組合岡山県高速道路利用

センター代表理事

荒木幸彦氏('65法)

ニチコン(株)代表取締役社長

内海貴夫氏('67経営・'70法)

京都市会議長

山本孝史氏('72産社)

参議院議員

川合孝典氏('87法)

参議院議員

金銅幸夫氏('02院社会)

チョーヤ梅酒(株)代表取締役
会長

訃報

橋本二郎氏

(本学名誉教授・元理工学部)
5月20日ご逝去。

板東慈夫氏('51経済)

(元徳島県校友会会長)
7月16日ご逝去。79歳。

BOOKS

校友会へご惠贈下さいました本の中から紹介させていただいております。

◆水江孝司氏('55経済) 著

『たかが落語 されど落語』

たまご書房*非売品

◆滝 幸久氏('76法) 著

『ふつうの国民が考えた
ニッポン』

小学館スクウェア*1238円+税

◆一色 尚氏('65法) 著

『教師力～授業は話す力、
聞かせる力～』

日本教育総合研究所*1800円+税

◆吉田智子氏('98院社会)

『オープンソースの逆襲』

出版文化社*1429円+税

◆稲葉克夫氏('62院文) 著

『陸羯南の津軽』

白神書院*1524円+税



りつめい No.230/2007年10月号

発行所/立命館大学校友会/年4回発行

発行人/山中 諄

編集人/尾崎 敬則

〒604-8520 京都市中京区西ノ京朱雀町1

Tel. 075 (813) 8216

Fax. 075 (813) 8217

URL: http://www.ritsumei.ac.jp/mng/al/al/

E-mail: alumni@st.ritsumei.ac.jp

あなたの最新の校友情報をお知らせください

住所や勤務先等に変更が生じましたら、校友会事務局までご連絡ください。

住所等変更
通知専用
フリーダイヤル

TEL: 0120-252094

FAX: 0120-252095

※発送の準備はご送付の1ヵ月前に行っているため、ご連絡いただく時期によっては、変更内容が最新号発送に反映されない場合がございます。ご迷惑をおかけいたしますが、何卒ご了承ください。

